

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

(令和4年度事業)

令和6年1月

山元町教育委員会

目 次

I	はじめに	
1	点検及び評価の趣旨	1
2	点検及び評価に対する事務の対象	1
3	点検及び評価の実施方法	1
4	評価結果の取扱い	1
II	山元町教育振興基本計画	
1	基本方針	2
2	計画の目標	2
3	基本方向と基本施策	3
	基本方向1 学ぶ力と自立する力の育成	3
	基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成	3
	基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくり	3
	基本方向4 家庭・地域・学校が協働して 子どもを育てる環境づくり	4
	基本方向5 伝統・文化の尊重と国際理解を育む教育の推進	4
	基本方向6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進	4
	基本方向7 防災教育をとおした命を守る意識の高揚	4
III	点検及び評価の結果	
1	教育委員会の活動	5
2	教育関係経費決算の状況	8
3	学校教育の充実	9
4	生涯学習の推進	1 5
5	点検評価表 (山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表)	2 5
IV	学識経験者の意見書	9 6
V	参考法令	1 0 8

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

I はじめに

1 点検及び評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

山元町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たすことを目的として、教育委員会の事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

2 点検及び評価に対する事務の対象

「山元町教育振興基本計画（アクションプラン）」に定める施策に関する事務事業のうち、令和4年度において教育行政の推進上、重要な課題に係るもの及び重点的、継続的な事業等（昨年度の事務事業において課題があるとされているもので継続して評価すべき事業）その他点検評価を行うことが必要と認める事業を対象としました。

3 点検及び評価の実施方法

点検及び評価については、対象事業ごとに必要性、効率性、公平性の観点から教育委員会事務局内部による自己総合評価を行い、さらに点検評価の客観性を確保するために教育に関する有識者の意見を聴取し、点検評価表を作成しました。令和4年度の山元町教育委員会が所管する事業の取り組み状況を総括するとともに、そこでの課題や、今後の方向性を示しつつ、学識経験者の意見を付したうえで取りまとめを行うものとします。

なお、結果を取りまとめた報告書については、山元町議会に提出するとともに、公表するものとします。

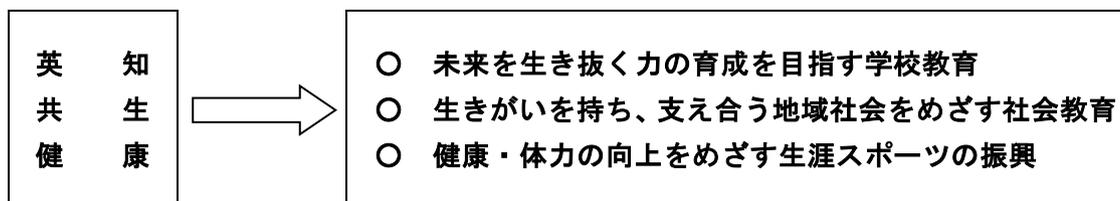
4 評価結果の取扱い

この点検評価結果については、評価の高い事業については、引き続き実施し評価の低い事業については、課題や問題の解決を行うと同時に事業の見直しについて検討し、翌年度以降における施策、事業の改善に役立てるものとします。

Ⅱ 第2期山元町教育振興基本計画（令和4年度～令和8年度）

1 基本方針

復興から新しいまちづくりをめざす山元町の豊かな自然と風土の中で、家庭及び地域の教育力を生かし、心豊かでたくましい人間形成を図るとともに町民の生涯にわたる学習の充実に努める。



2 計画の目標

本町教育が5年間で目指す姿の実現に向けて、具体的には、4つを「計画の目標」として取り組みます。

- 目標1 夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む。
- 目標2 家庭・地域・学校の教育力の充実と連携の強化を図り、山元の豊かな教育資源を生かしながら、社会全体で子どもを守り育てる環境をつくる。
- 目標3 次代を支える社会の一員として、歴史が培ってきた文化や規範を尊重し、思いやりの心に富んだ人間を育むとともに他国の文化の理解を深める。
- 目標4 生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。

3 基本方向と基本施策

本計画では、目指す姿の実現を目指し、4つの計画目標のもと、8つの基本方向及び基本施策に取り組みます。

基本方向1 豊かな人間性や社会性の育成

- (1) 生きる力を育む志教育の推進
- (2) 道徳教育の推進 重点的事項①
- (3) いじめ・不登校への対応 重点的事項②

基本方向2 確かな学力の育成

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の定着と活用する力の伸長 重点的事項③
- (2) 「分かる授業」への授業改善
- (3) ICT 教育の推進 重点的事項④
- (4) 国際理解を育む教育の推進
- (5) 特別支援教育の充実

基本方向3 健やかな身体の育成

- (1) 知育・徳育にもつながる基本的生活習慣の定着 重点的事項⑤
- (2) 体力・運動能力の向上
- (3) 食育の推進

基本方向4 教育環境・教育活動の充実

- (1) 小学校再編の計画的推進
- (2) 「みのりプロジェクト推進事業」(学校教育充実事業)の推進 重点的事項⑥

(3) 教職員の働き方改革の推進

(4) 家庭環境諸整備の推進

基本方向5 家庭・地域・学校の連携・協働の推進

(1) コミュニティ・スクールの導入と地域学校協働本部の連携

重点的事項⑦

(2) 小小連携、幼保小連携、小中連携の強化

(3) 子供たちの体験活動の推進

(4) 家庭教育支援の充実

基本方向6 伝統・文化の尊重と文化財の保護と活用

(1) 伝統・文化の尊重と理解

重点的事項⑧

(2) 文化財の保護と活用

基本方向7 生涯にわたる学習・文化芸術・スポーツ活動の推進

(1) 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進

(2) 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実

重点的事項⑨

(3) 震災遺構の活用

基本方向8 防災教育をととした命を守る意識の高揚

(1) 防災教育の推進・充実

重点的事項⑩

(2) 地域の自主防災訓練や町総合防災訓練への参加

(3) 震災遺構・防災拠点の利活用

Ⅲ 点検及び評価の結果

1 教育委員会の活動について

山元町教育委員会は、山元町長が町議会の同意を得て任命した教育長及び4人の委員により組織される合議制の執行機関であり、その権限に属する教育に関する事務を管理執行しています。

平成28年10月1日からは、一部改正後の地教行法の規定に基づき、委員長と教育長を一本化した新教育長が任命され、事務を執行しています。(新制度)

教育委員会の会議は、毎月定例会を開催し(必要に応じて臨時会を開催)、教育行政に関する各種議案等の審議などを行います。

また、各小・中学校や社会教育施設の実情等を把握するとともに、学校経営・授業等に対し指導助言を行うため、学校や社会教育施設を訪問しています。

(1) 教育委員会委員

①令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

職名	氏名	任期
教育長	菊池卓郎	平成28年10月1日～令和7年9月30日
教育長職務代理者	大内悦夫	平成24年4月1日～令和6年3月31日
委員	菅野正彦	平成29年7月1日～令和7年3月31日
委員	古泉可奈	平成31年4月1日～令和5年3月31日
委員	横山真理子	令和4年4月1日～令和8年3月31日

(2) 定例会の開催について

区分	期日	付議事件等(主な審議事項を掲載)
第1回定例会	令和4年4月25日	①山元町学校運営協議会委員の委嘱について ②山元町立学校給食運営審議会委員の委嘱について ③山元町教育支援委員会委員の委嘱について ④山元町社会教育委員の委嘱について ⑤山元町奨学生緊急支援金給付事業実施要綱について
第2回定例会	令和4年5月25日	①県費負担職員の行政措置に関し議決を求めることについて ②町指定文化財「茶室」等に係る整備・保存方針について ③山元町いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱等(補充)について
第3回定例会	令和4年6月27日	報告のみ
第4回定例会	令和4年7月25日	①令和5年度使用教科用図書採択の承認について
第5回定例会	令和4年8月25日	①山元町スポーツ推進条例について

第6回定例会	令和4年9月26日	①山元町学校給食費徴収規則の一部を改正する規則について ②山元町児童生徒就学援助実施要綱の一部を改正する告示について
第7回定例会	令和4年10月25日	①山元町特別支援連携協議会委員の委嘱及び任命について ②山元町奨学金貸与規則の一部改正について
第8回定例会	令和4年11月25日	報告のみ
第9回定例会	令和4年12月26日	①就学指定校変更願について ②就学指定校変更願について
第10回定例会	令和5年1月25日	①山元町教育委員会に関する点検評価報告書について ②令和5年度山元町教育基本方針(案)について
第11回定例会	令和5年2月10日	①県費負担職員の人事について ②令和5年度教育関係当初予算案に対する意見聴取について ③山元町文化財保護委員会への諮問について
第12回定例会	令和5年3月28日	①山元町教育相談員の委嘱について ②山元町スポーツ推進委員の委嘱について ③山元町社会教育指導員の委嘱について ④山元町地域学校協働活動コーディネーターの委嘱について ⑤山元町文化財保護委員会からの答申について ⑥山元町文化財保護委員会への諮問について ⑦山元町スポーツ団体事業費補助金交付要綱の一部を改正する告示について

(3) 臨時会の開催について

区分	期日	付議事件等(主な審議事項を掲載)
第1回臨時会	令和4年7月5日	①令和5年度使用教科用図書の採択計画書について
第2回臨時会	令和5年3月17日	①一般職員の人事について

(4) 山元町総合教育会議の開催について

期日	会場	主な議題等	出席者
令和4年5月6日	山元町役場大会議室	①教育等の振興に関する施策の大綱(案)について ②小学校再編の進め方について ③町民体育館改修工事について	町長、教育長、教育委員4名
令和4年9月26日	山元町役場第2会議室	①小学校再編の進め方について ②部活動の地域移行について	町長、教育長、教育委員4名
令和5年1月26日	山元町役	①小学校再編の進め方について	町長、教育

	場大会議 室	②部活動の地域移行について	長、教育委員4名
令和5年2月10日	山元町役 場第2会 議室	①小学校再編について	町長、教育 長、教育委 員4名

(5) 教育委員の教育機関訪問

期 日	訪問先	主な内容等
令和4年6月27日	坂元小学校 山下第二小学校	坂元小学校（給食試食）、山下第二小学校 ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
令和4年8月25日	体育文化センター ふるさと伝承館 中央公民館	・施設の視察
令和4年11月25日	山元中学校	山元中学校（給食試食） ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
令和4年12月26日	おもだか館 少年の森 ふるさと伝承館 中央公民館	・現場説明・意見交換等
令和5年1月25日	山下第一小学校 山下小学校	山下第一小学校（給食試食）、山下小学校 ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等

2 教育関係経費決算の状況

令和4年度決算額は、教育費10億4,808万円、前年度比45.5パーセントの増加でした。

主な増減理由については、小学校費で山下第一小学校大規模改修に伴う増加、中学校費で前年度の中学校エアコン移設工事終了による減少、保健体育費で体育文化センター長寿命化工事及び耐震化工事による増加となります。

○目的別決算の状況

(単位：千円、%)

区 分	令和4年度		令和3年度		増減額	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比		
教育総務費	110,378	10.5	107,062	14.9	3,316	3.1
小学校費	383,077	36.6	154,544	21.5	228,533	147.9
中学校費	103,425	9.9	120,522	16.7	-17,097	-14.2
幼稚園費	1,469	0.1	1,085	0.2	384	35.4
社会教育費	201,318	19.2	216,687	30.0	-15,369	-7.1
保健体育費	248,409	23.7	120,512	16.7	127,897	106.1
教育費 計	1,048,076	100.0	720,412	100.0	327,664	45.5

○性質別決算の状況

(単位：千円、%)

区 分	令和4年度		令和3年度		増減額	増減率
	決算額	構成比	決算額	構成比		
人件費	225,443	21.5	229,970	31.9	-4,527	-2.0
物件費	365,356	34.9	421,377	58.5	-56,021	-13.3
維持補修費	9,727	0.9	4,493	0.6	5,234	116.5
扶助費	24,662	2.4	25,005	3.5	-343	-1.4
補助費等	27,365	2.6	13,940	1.9	13,425	96.3
普通建設事業費	392,533	37.4	23,595	3.3	368,938	1,563.6
積立金	2,990	0.3	2,032	0.3	958	47.1
貸付金	0	0.0	0	0.0	0	0.0
教育費 計	1,048,076	100.0	720,412	100.0	327,664	45.5

3 学校教育の充実

(1) 小・中学校児童生徒数等について（5月1日現在）

令和4年度児童生徒数は、700人で前年度より3人の減少でした。

○小学校

(単位：組、人)

	令和4年度		令和3年度		増 減	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
1年生	4	81	5	86	-1	-5
2年生	4	75	4	73	0	2
3年生	5	88	3	71	2	17
4年生	4	74	4	69	0	5
5年生	3	75	4	66	-1	9
6年生	4	69	4	66	0	3
特別支援	10	19	8	15	2	4
計	34	481	32	446	2	35

○中学校

(単位：組、人)

	令和4年度		令和3年度		増 減	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
1年生	2	68	2	70	0	-2
2年生	2	71	3	86	-1	-15
3年生	2	73	3	97	-1	-24
特別支援	2	7	2	4	0	3
計	8	219	10	257	-2	-38

(2) 就学援助事業

経済的理由によって就学困難な生徒の保護者や震災により被災した児童生徒の保護者に対し、学校用品費等の援助を行うとともに、心身に障害のある生徒の保護者に対する援助を実施し、就学の奨励を図ったものです。

○要保護・準要保護就学援助事業

(単位：円)

区分	対象数・金額	小学校		中学校	
		援助対象人数	援助額	援助対象人数	援助額
令和3年度		46	3,439,347	27	613,710
令和4年度		52	3,733,342	28	2,928,605

○特別支援教育就学奨励事業

(単位：円)

区分	対象数・金額	小学校		中学校	
		援助対象人数	援助額	援助対象人数	援助額
令和3年度		13	467,167	4	252,947
令和4年度		11	407,988	5	288,558

○被災児童就学奨励事業

(単位:円)

区分	小学校		中学校	
	援助対象人数	援助額	援助対象人数	援助額
令和3年度	29	2,164,792	26	2,895,048
令和4年度	20	1,292,519	26	2,869,348

(3) 学校給食費補助事業

小・中学校に通学する2子以降の児童生徒の保護者に対し、学校給食費を補助することにより、多子世帯の経済的負担を軽減し子育て支援を推進するものです。

○学校給食費補助事業

(単位:円)

区分	小学校		中学校	
	対象人数	補助額	対象人数	補助額
令和3年度	159	7,922,932	18	939,903
令和4年度	173	8,344,151	11	637,362

(4) 学校教育充実事業 (みのりプロジェクト)

学校教育に係る現状の課題を踏まえ、今後の取り組みについての計画を策定し、児童生徒が将来、夢や志を持って社会で生き抜いていけるよう、教育活動の充実を図った。

- ・推進会議3回
- ・大学連携による研修会4回(仙台大学(スポーツの楽しさを伝える研修会4回)、尚絅学院大学(SDGs研修会))
- ・専門部会(知育部会・徳育部会・体育部会)の活動

(5) 山元町いじめ問題対策連絡協議会について

いじめの防止等に関係する機関及び団体の連携その他いじめの防止等のための対策を推進するために必要な事項に関し、連絡及び協議を行うため、協議会(書面)を開催しました。

なお、令和4年度における山元町のいじめの認知件数等は以下のとおりです。

○いじめ問題対策連絡協議会開催の概要

期 日	会 場	主 な 議 題 等
令和4年9月28日	山元町役場大会議室	1 令和3・令和4年度いじめ認知状況について 2 いじめ防止対策について①各団体のいじめ防止対策の取り組み状況について
令和5年2月15日	山元町役場大会議室	1 令和3・令和4年度いじめ認知状況について 2 いじめ防止対策について①各団体のいじめ防止対策の取り組み状況について

○山元町のいじめの認知件数

(令和5年3月31日現在)

学 校 名	学 年						計	状 況	
	1	2	3	4	5	6		継続指導中	解 消
坂元小学校	1	0	3	0	1	0	5	2	3
山下小学校	1	0	0	1	0	0	2	0	2
山下第一小学校	0	0	0	0	1	0	1	0	1
山下第二小学校	0	0	0	0	1	1	2	0	2
山元中学校	1	1	0				2	1	1
計	3	1	3	1	3	1	12	3	9

(6) 子どもの心のケアハウス運営事業について

山元町立小中学校における不登校等の児童生徒及び保護者に対し、教育相談、生活相談、学習支援等を通して、不登校児童生徒の自立及び学校生活への自発的な復帰を促すことを目的とし、専任の担当職員を採用しケアハウスを運営する。

通所者数	12人	通所者内訳
相談件数	243件	小3:男2・女1 中1:女1 小4:男1・女1 中2:女1
開所日数	237日	小6:男1・女1 中3:男1・女2

(7) 学力調査実施事業

町独自で学力調査を行うことにより、学力向上を目的とした詳細な指導計画の策定や、日々の授業内容の改善を目的に実施しました。

○実施状況

項 目	小学校	中学校
実施回数	年2回(1学期、3学期)	年2回(1学期、3学期)
実施学年	1年生～6年生 (1年生は3学期のみ実施)	1年生～3年生 (3年生は1学期のみ実施)
実施科目	国語、算数	国語、数学

(8) 子ども見守り隊活動支援事業

町内4小学校で結成されている子ども見守り隊に対し活動補助金を交付し、通学時の児童生徒の安全確保を図りました。

(9) 特別支援教育支援員・スクールサポートスタッフ配置

特別支援教育支援員を各校に配置し、小・中学校において障害のある児童生徒に対し、食事、排泄、教室の移動補助等学校における日常生活動作の介助、発達障害の児童生徒に対し学習活動上のサポートを行いました。

また、スクールサポートスタッフを各校に配置し、新型コロナウイルス対応のため教室の換気や消毒、家庭への配布物の印刷・帳合、子供の健康観察のとりまとめやデータ入力、電話対応など、感染症対策のために増加した教員の各種業務サポートを行いました。

学校名	特支	配置期間	SSS	配置期間
坂元小学校	1人	R4.4.1～ R5.3.31	1人	R4.4.1～ R5.3.31
山下小学校	4人		1人	
山下第一小学校	2人		1人	
山下第二小学校	2人		1人	
山元中学校	2人		1人	
計	11人		5人	

(10) 奨学生緊急支援金給付事業

新型コロナウイルス感染症の影響等により、減収し経済的に困窮する奨学生54人に対し修学を援助するため緊急支援金の給付を行いました。

(11) 主な施設整備等の状況について

① 小・中学校校務支援システム導入事業

国が示す「GIGAスクール構想」を踏まえ、教員の長時間勤務を解消し、教育の質の維持向上を図るための具体的な解決策の1つとして、教職員のICT環境整備及び業務効率化のため小中学校に教務系(成績処理、出欠管理、時数管理等)、保健系(健康診断票、保健室来室管理等)、学籍系(指導要録等)、学校事務系などを統合した校務支援システムを運用しています。

② 小中学校 ICT 支援員配置事業

支援員は、教員の実務面に対して支援を行うため、授業計画の作成、ICT機器の準備・操作、校務システムの活用などを通じ、日常的な教員のICT活用支援を行います。

(12) 学校給食の概要について

学校給食は、成長期にある児童生徒の心身の健全な発達のために、バランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより、健康の増進、体位の向上を図ることに加え、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に着け、好ましい人間関係を育てるなど多様で豊かな教育的なねらいを持っています。

一方、不規則な食事や偏った食事内容、さらに家庭環境の変化など見過ごすことのできない問題等もみられることから様々な課題等にも対応してきました。

① 給食費の公会計化について

学校給食費の公会計化については、令和元年7月31日付け、文部科学省通知の「学校給食費等の徴収に関する公会計化等の推進について」に基づき、令和2年度から実施しています。町が口座振替等により年10回にわけて年間給食費を保護者から直接給食費を徴収しています。

また、給食費の徴収にあたっては、山元町学校給食費徴収規則を定め、規則に基づき事務をすすめております。

② 調理食数

小学校4校：550食

中学校1校：290食 計840食（1月10日現在）

③ 給食の形態（完全給食）

米飯給食 週4回（月、火、木、金）
パン給食（麺給食併用） 週1回（水）

④ 給食運営の負担区分

町費負担 給食施設の維持管理経費、人件費、消耗品費等
保護者負担 小学校 291円（児童1人 1食あたりの食材費）
中学校 333円（生徒1人 1食あたりの食材費）

給食の単価については、平成26年2月の学校給食運営審議会で議論された結果、消費税率引き上げに伴う給食費の改定が行われ、平成26年度から小学校は8円、中学校は9円増額しました。令和2年度は据え置きですが、食材費の価格上昇に伴い、令和3年度から小学校13円、中学校14円増額改定しました。令和4年度は、コロナ禍対応財源を活用し、材料費の価格高騰分を給食費に反映させないよう公費負担としており、据え置きです。

⑤ 給食調理・給食運搬業務委託事業

- ・学校再編に伴う給食室の統合により、令和3年3月1日から令和6年7月31日までシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社山元営業所に給食調理業務を委託し、山元中学校給食室で実施しています。
- ・給食運搬業務委託事業は、平成31年4月1日から令和6年3月31日まで、社会福祉法人山元町社会福祉協議会に委託し、コンテナ車による配送を行っています。配送先は、山元中学校から坂元小学校、山下第一小学校及び山下第二小学校です。

⑥ 給食調理等職員数（5月1日現在）

調理場	栄養士	栄養教諭	会計年度任用職員栄養士	調理業務委託（シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社）	計	備考
山元中学校		1名	1名	調理員12名	14名	

⑦ 特色ある事業

町内小・中学校では学校給食の意義や役割の理解、食を通じて地域等を理解することなど食文化の継承を図ること、自然の恵みの大切さなどを理解することを目的とする食育の活動を行っています。

⑧ 食材の放射性物質検査について

宮城県で実施してきた学校給食用食材の放射能サンプル測定の事業が令和2年度で終了しました。また、東日本大震災以降、本町において放射性物質検査を実施してきましたが、厚生労働省が定める基準値を超える放射性物質は検出され

なかったことなどから、令和3年度から給食食材の放射性物質検査は実施しておりません。

⑨ 山元町立学校給食運営審議会を開催

期 日	会 場	主 な 議 題 等	備 考
令和5年3月1日	山元町役場 大会議室	1 令和4年度学校給食運営について 2 令和5年度学校給食運営について	

⑩ 自然災害、感染症等での学校閉鎖時等の給食費の取扱いについて

学校閉鎖時等の給食回数の考え方とそれに伴う給食費については、給食費の公会計化に伴い、自然災害等による臨時休業の場合には、給食費を返金することとします。食材発注の取り消しが間に合わず、食材が納品された場合には、町が負担することとします。

・令和4年度の対応状況

年月日	事由	対象	対応
令和4年9月20日	臨時休業 (台風のため)	全小中学校 全学年	給食費は徴収しない。 (町が負担)
令和4年12月20日 ～12月22日	臨時休業 (新型コロナウイルス 感染防止による)	山下第二小学校 1学年	給食費は徴収しない。 (町が負担)

⑪ 給食費の未納について (令和5年2月1日現在)

年度	未納金額	未納人数
令和2年度	103,003円	3人
令和3年度	163,196円	3人
令和4年度	454,507円	30人

4 生涯学習の推進

令和4年3月に策定した、第2期山元町教育基本計画アクションプランに基づき、社会教育の活動推進、地域文化の保護と活用、並びに社会体育と生涯スポーツの振興を重点施策とし、併せて地域コミュニティの再構築を目的とした協働教育を推進するなど、住民主体による家庭、地域、学校等が一体となった協働によるまちづくりに取り組みました。

また、さらなる協働教育の連携強化を図るため、協働教育コーディネーターを引き続き配置し、事業を推進するとともに、住民や各種社会教育団体の生涯学習意欲の高まりに応えるため、生涯学習施設・社会体育施設の維持管理・利用調整等を行い、活動の支援を行いました。

(1) 家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくり

① 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくり

子育てに関するスキルの向上を図るため、子育て期間中の親と、支援を行う関係諸団体等に対し、有益な情報や学習機会を提供しました。

ア 子育てサポーターの養成

No.	事業名	日程期間	回数	参加者数	備考
1	子育てサポーター養成講座	5/31 6/9 6/14	3回	2名	主催： 宮城県教育委員会 (みやぎらしい家庭教育支援基盤形成事業)
2	子育てサポーターリーダー養成講座	9/8 10/6 11/7 12/8	4回	3名	主催： 宮城県教育委員会
3	県地域指導者養成講座	9/22	1回	1名	主催： 宮城県教育委員会

イ 家庭教育支援チームの活動支援

No.	情報紙名	会員	活動等
1	家庭教育支援チーム「つばめ」	30名	毎月定例会（スタッフ会議、情報誌発行（年6回 各回550部）、家庭教育学級等支援

ウ 子育てサークルの活動支援

こどもセンターを主な活動の場とし、活動及び運営の補助を行いました。

No.	団体名	内容	活動日等
1	育児サークル「なかよし会」	親子共同保育	毎週木曜日 10家族

② 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり

ア 地域学校協働本部の設置

地域学校協働本部の設置要綱及び山元町地域学校協働活動コーディネーター等設置要綱を平成30年3月に告示し、平成30年6月に3名のコーディネーターを委嘱し、令和元年度にはさらに1名のコーディネーターを増員し、現在4名で活動しています。要綱、平成30年4月1日施行

イ 地域人材を活用した学校教育活動の支援

小中学校の要望に応じて、協働教育コーディネーターを通じ、スポーツ推進委員や指導者、安全見守りボランティアの情報提供及び連絡調整を行い、協働教育の充実を図りました。

ウ 学校支援教育

No.	学校名	学年	時期	内 容	備 考
1	山下小	5	通年	金管バンド指導	講師1名
		全	通年	見守り活動	ボランティア40名
		全	6/14	体力運動能力テスト補助	スポーツ推進委員2名
		2	11/16	山小町探検	ボランティア2名 コーディネーター2名
		5	1/25・ 26・31	ミシン縫い活動補助	ボランティア延べ14名 コーディネーター延べ8名
		1~4	通年	読み聞かせボランティア	6名(年10回程度)
2	山一小	全	通年	読み聞かせボランティア	6名(年10回程度)
		全	通年	見守り活動	ボランティア20名
3	山二小	全	通年	読み聞かせボランティア	8名(年10回程度)
		全	通年	見守り活動	ボランティア13名
4	坂元小	全	6/10	体力運動能力テスト補助	スポーツ推進委員2名
		全	通年	読み聞かせボランティア	6名(年10回程度)
		全	通年	見守り活動	ボランティア38名
5	山元中	1	11/9	「命の教室」活動補助	支援員9名
		1	11/28	ミシン縫い活動補助	ボランティア6名
		1	1/23	裁縫活動補助	ボランティア6名 コーディネーター4名

エ 放課後子ども教室活動の充実

No.	事業名	期間	回数	登録者数(名)	備考
1	はまっこキッズ (坂元小対象)	5/27 ～ 3/3	19回	15名 (延べ192名)	会場：坂元小学校 スタッフ数9名 (延べ71名)
2	みやまっこクラブ (山下小・山一小・ 山二小対象)	5/23 ～ 3/6	21回	11名 (延べ139名)	会場：山下第一小学校 スタッフ数5名 (延べ73名)
計				26名 (延べ331名)	

③ 子どもたちの体験活動の推進

ア 地域の教育資源(ヒト・モノ)を活用した世代間交流事業(やまもと楽校等)の実施

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考		
1	オンライン科学実験	9/17	1回	8名	会場：中央公民館 主催：小金井実行委員会		
2	子どもの笑顔元気 ミュージカル	7月	1回	25名	会場：ひだまりホール 主催：こどもミュージカル プロジェクト		
3	ロボサバ大会	8月 1月	2回	16名	会場：坂元地域交流センター 主催：ロボサバBASE 山元 実行委員会		
4	子どもも大人もみんな で遊び隊	5月 8月	新型コロナウイルス 感染拡大防止のため中止		主催：子どもも大人もみんな で遊び隊実行委員会 共催：山元町教育委員会		
5	YVC虹・ちびっこ 盆踊り	7月			主催：YVC虹		
6	地域教育資源活性化 事業 「やまもと楽校」	8月			主催：山元町教育委員会 協力：町内ボランティア		
7	YVC虹・お月見会	9月			主催：YVC虹		
8	YVC虹・クリスマス 会	12月			主催：YVC虹		
9	インリーダー研修会	3月			主催：YVC虹		
10	青年活動活性化事業 「ロビーミニコンサ ート」	1月 2月			主催：山元町教育委員会		
11	ジュニア・リーダー 初級研修会 (小6～中3 対象)	3/18 ～ 3/19			1回	8名	主催：山元町教育委員会 会場：ひだまりホール

イ 社会教育関係団体等育成のための補助金

No.	団体名称	代表者名	金額（円）
1	山元町文化協会	山上 利昭	300,000
2	なかよし会	奥山 早織	13,000
3	山元ボランティアサークル虹	菅野 智寛	21,000
4	山元町青少年育成推進協議会	菊池 卓郎	70,000
5	すばらしいやまもとを創る協議会	星 忠三	70,000
合 計			474,000

ウ 社会教育関係団体等育成のための事業参加負担金の助成

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	ジュニア・リーダー中級研修会	8/16・ 17	1回	4名	主催： 宮城県教育委員会

エ 姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会参加者に対する助成

No.	事業名	期間	回数	参加者	備考
1	第26回姉妹・歴史友好都市 シニアリーダー研修・交流会 (会場：柴田町)	7/27 ～29	1回	24名	主催：柴田町 共催：伊達市・新地 町・亘理町・ 山元町

④ 家庭教育の充実

ア 家庭教育学級・幼児学級の開催

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	家庭教育学級・幼児学級	6/8 ～ 2/9	8回	延べ 150家庭 (310名)	・各小学校で2回開催 ・1回目：校長による学校の取組や入学までの心構え等を講話 ・2回目：入学説明会を含めて開催（保護者のみ）

イ 家庭教育講座の開催

No.	事業名	回数	参加者数	備考
1	家庭教育支援講座 「ちびっこひろばきらり☆」	6回	延べ53家庭 (126名)	町内生涯学習施設等で開催

(2) 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

① 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進

ア 町広報誌やホームページ等を通じ、関係機関・団体等が開催する展示会や発表会の情報を提供する。

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	第45回町民文化祭	11月	1回	800名	主催： 山元町文化協会
2	第25回文化推進事業	11月	1回	250名	主催： 山元町文化協会

イ 国や県の事業（巡回小劇場等）を積極的に活用しました。

No.	事業名	日程	回数	参加者数	備考
1	宮城県巡回小劇場 「しゃみせんいろいろ」 (山下小学校)	11/21	1回	214名	主催： 宮城県教育委員会 山元町教育委員会

② 文化財の保護と活用

ア 文化財保護委員5名を委嘱し、町文化財等に関する答申を行いました。

・文化財保護委員会 開催回数 5回

イ 合戦原遺跡横穴墓出土装飾付大刀復元品制作業務

復興事業に伴い発掘調査を実施した合戦原遺跡の横穴墓から出土した装飾付大刀の復元品制作を行いました。

請負者 株式会社 スタジオ三十三

期間 令和4年9月30日から令和5年3月24日まで

契約額 2,530,000円

ウ 指定文化財茶室等整備実施設計業務

「山元町第6次総合計画」及び「町指定文化財茶室等整備基本計画」に基づき、坂元地区の江戸時代旧領主である大條氏に関連する歴史遺産群等を保護・活用する場を提供するため、茶室等建物や敷地の実施設計を行いました。

請負者 株式会社 氏家建築設計事務所

期間 令和4年10月3日から令和5年9月29日まで

契約額 9,350,000円

※令和5年度へ繰越

エ 団体への補助金の交付

No.	団体名称	金額 (円)
1	坂元神楽保存会	20,000
2	坂元おけさ保存会	20,000
3	中浜神楽保存会	20,000

オ 復興交付金事業 埋蔵文化財整理業務実施遺跡一覧 (主要遺跡)

遺跡名	行政区	調査原因	業務内容
合戦原遺跡	合戦原区	防災集団移転等	出土品の整理 報告書作成
山下館跡遺跡	山下区	津波復興拠点 整備事業	〃

・発掘調査報告書印刷製本業務 (その2)

請負者 今野印刷株式会社

期間 令和3年12月22日から令和4年3月31日まで (当初)

契約額 18,150,000円 (当初)

変更期間 令和3年12月22日から令和4年6月30日まで

変更契約額 18,480,000円

③ 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実

ア 深山山麓少年の森拡張・改修事業

深山山麓少年の森における駐車場不足等の解消や経年劣化による遊具の改修等を目的とし施設の拡張及び改修を行うための業務を行いました。

・令和3年度(繰)山元町深山山麓少年の森拡張・改修実施設計業務委託

請負者 国際航業株式会社仙台支店

期間 令和4年8月12日から令和5年6月30日まで

契約額 28,114,000円

※令和5年度へ繰越

・令和4年度 山元町深山山麓少年の森地下水調査業務委託

請負者 東北ボーリング株式会社

期間 令和4年12月22日から令和5年1月27日まで

契約額 935,000円

イ 事業実施状況

No.	事業名	日程 期間	回数	参加者数	備考
1	トレーニング器具 取扱い講習会			中止※	会場：町民体育館 指導者：スポーツ推進委員

※令和4年3月16日に発生した地震の影響

ウ スポーツ競技者及び団体等への支援体制の整備

スポーツ団体への助成を行い、広くスポーツの推進を図るとともに、全国大会等へ出場する選手（団体・個人）に対し賞賜金を交付し、スポーツの振興を推進しました。

・社会体育関係団体への補助金の交付状況等

No.	団体名称	代表者名	金額（円）
1	山元町スポーツ協会	嶋田 博美	100,000
2	山元町ソフトボール協会	嶋田 博美	130,000
3	山元町グラウンドゴルフ協会	萩原 恭子	80,000
4	山元町パークゴルフ協会	青田 義久	130,000
5	山元町剣道協会	遠藤 寛	100,000
6	山元町バドミントン同好会	森 久一	100,000
7	山元町スポーツ少年団本部	菊地 康彦	110,000
8	山元剣道スポーツ少年団	佐山 崇	50,000
9	山下フレンズスポーツ少年団	阿部 正晴	35,000
10	坂元ファルコンスポーツ少年団	星 建二	36,000
11	山元町バスケットボール協会	永谷 健一	50,000
12	山下ポニースポーツ少年団	土井 重信	34,500
13	YYクラブ・ジュニアスポーツ少年団	菊地 康彦	37,000
14	山元町卓球協会	菅野 正春	50,000
合 計			1,042,500

・地域スポーツレクリエーション補助金の交付状況等

No.	団体名称	金額
1	合戦原区	10,000
2	久保間区	10,000
合 計		20,000

・賞賜金の交付状況

No.	区 分	件 数	金額(円)	備 考
1	全国大会出場	18 件	560,000	ソフトボール 2 件(2 団体)
				バレーボール 1 件(1 個人)
				空手 8 件(8 個人)
				バスケットボール 2 件(2 個人)
				チアダンス 5 件(5 個人)
2	東北大会出場	4 件	115,000	ソフトボール 1 件(1 団体)
				バレーボール 1 件(1 個人)
				空手 2 件(2 個人)
合 計		22 件	675,000	

④ 施設の利用状況

ア 社会教育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数 (人)	前年度 利用者数 (人)
1	中央公民館	9,388	8,494
2	勤労青少年ホーム	5,337	5,099
3	山下地域交流センター	40,454	44,763
4	坂元地域交流センター (坂元公民館)	25,282	24,509
5	深山山麓少年の森	19,720	20,439
6	歴史民俗資料館	672	986
7	ふるさと伝承館	1,155	408
8	震災遺構中浜小学校	20,942	13,774

イ 社会体育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数 (人)	前年度 利用者数 (人)
1	町民体育館 (武道場含む)	6,515	932
2	町民グラウンド	3,227	2,674
3	山寺深山グラウンド	2,640	2,218
4	真庭グラウンド	805	1,647

(4) 防災教育を通じた命を守る意識の高揚

震災遺構の活用

震災遺構としての整備・保存【旧中浜小学校震災遺構保存整備事業】

東日本大震災の脅威・教訓を風化させることなく伝承し、防災・減災の意識を向上させるため、震災により被災した中浜小学校を震災遺構として保存整備し、令和2年9月26日に内部公開を伴う施設として一般公開を開始しました。

2020年度のグッドデザイン・ベスト100、特別賞となるグッドフォーカス賞（防災・復興デザイン）をダブル受賞するなど見学体験の工夫が高く評価され、令和4年度末の入館者数は20,942人（日平均75人）、全体の3割弱が県外から訪れています。

【関連業務】

- ・令和4年度 震災遺構中浜小学校浄化槽管理業務委託
請負者 株式会社ヤマモト商事
期間 令和4年4月27日から令和5年3月31日まで
契約額 130,500円

- ・令和4年度 山元町公共施設消防設備等・防火対象物点検結果報告業務
請負者 株式会社櫻井防災
期間 令和4年6月28日から令和5年3月31日まで
契約額 74,800円

- ・令和4年度（債務）山元町公共施設警備業務委託
請負者 セコム株式会社岩沼営業所
期間 令和3年4月1日から令和6年3月31日まで
契約額 686,400円

- ・令和4年度震災遺構中浜小学校清掃業務委託
請負者 一般社団法人シルバー人材センター
期間 令和4年4月7日から令和5年3月31日まで
契約額 316,800円

- ・令和4年度山元町震災遺構中浜小学校サブサイト構築業務委託
請負者 株式会社インフォメーション・ネットワーク福島
期間 令和4年9月30日から令和5年3月31日まで
契約額 869,000円

【参考：歳入】

No.	事業名	金額（円）
1	震災遺構中浜小学校観覧料	6,354,100
2	〃 ガイドブック等売上	438,300
2	語りべガイド料	580,000
合 計		7,372,400

令和5年度実施

山元町教育委員会に関する点検評価報告書（評価表）

山元町教育振興基本計画（アクションプラン）

（令和4年度）

【山元町教育委員会】

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向 1 豊かな人間性や社会性の育成

評価(達成度): A(90%~) B(70%~) C(40%~) D(40%未満) N(評価不能)

(1) 生きる力を育む志教育の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
「志教育」 の推進	「志教育」を通して、児童生徒が人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、自らの在り方や生き方について主体的に探求していきけるよう、学校の取組について一層の推進・充実を図る。	「志教育」全体計画・年間指導計画の充実を図るとともに、系統的教育活動を通して発達段階に応じた豊かな心を持った人づくりの推進	A	主に総合的な学習の時間において、コロナ禍にあっても系統的な地域学習を取り入れ、特色ある地域の伝統や産業によさを知り、理解を深めることができた。 次年度以降、より積極的な活動ができればと考える。	坂元小
			A	全体計画及び年間指導計画を基に、学校行事や特別活動に志教育の目標（かかわる・はたす・もとめる）を位置付け、発達段階に応じた実践をしてきた。	山下小
			A	道徳科及び総合的な学習の時間での取組を中心に、全ての教科において取組の観点を定め実践できた。CSの方々等、地域の方々との関わりの中で得た学びも大きかった。	山一小
			A	志教育の全体構想図・各学年年間計画を設定し、本校教育計画に明示した。志シートを、年度の始めと終わり、各行事の事前・事後に活用することができた。	山二小

「志教育」の推進	「志教育」を通して、児童生徒が人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、自らの在り方や生き方について主体的に探求していけるよう、学校の取組について一層の推進・充実を図る。	「みやぎの先人集」等資料の効果的な活用	A	各教育活動における取組の重点を踏まえ、各学年、学級等で自己の生き方や将来と関連付けて、生徒が主体的に活動することができた。	山元中
			B	主に特別の教科道德の時間で活用するように努めた。	坂元小
			B	「みやぎの先人集」は主に道德の時間に活用し、児童の実態に即した内容項目を選択して指導した。	山下小
			B	クラスの実態に合わせ、関連する価値項目を適宜活用できた。	山一小
			B	各学年において使用していたが、活用頻度についてさらに工夫する余地がある。	山二小
			D	志教育の全体計画に位置付けて効果的な指導を模索していきたい。	山元中
	夢や志の表現・発表の場の設定と一人一人が主体的に学ぶ意欲と目標を持つ指導の推進	A	各学習において、成果物の作成と発表の機会を設定した。また、未来への絆を活用し、夢や志を持ち、意識して生活できるよう指導に努めた。	坂元小	
		A	一人一人が目標と振り返りを発表し、児童相互が認め合う場を様々な場面で設定した。また、他学年へのプレゼンテーションや、学習参観等での発表を積極的に行った。	山下小	

「志教育」の推進	「志教育」を通して、児童生徒が人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、自らの在り方や生き方について主体的に探求していけるよう、学校の取組について一層の推進・充実を図る。	夢や志の表現・発表の場の設定と一人一人が主体的に学ぶ意欲と目標を持つ指導の推進	A	朝会での校長講話や夢や志をテーマとした作文指導等を通し、意欲付けを図ることができた。	山一小
			A	「山元の子ども3つの約束」や「山二小児童会のスローガン」、学級・個々の目標を意識して生活することができていた。	山二小
			A	各学年での取組の成果や足跡を示すために発表の仕方を工夫して設定し、実施することができた。	山元中
		【第6次山元町総合計画・目標指標】 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合(小学校6年生、中学校3年生) 中間値(2023年)小87.0%、中75.0%、目標値(2028年)小90.0%、中78.0% を達成するための取組の推進	B	志教育を推進することで、具体的な夢や希望を持つことができる児童が増えている。 抱いた夢や希望をかなえるため、また目標を達成するために何をすべきかまで考えられるような指導を展開していく必要がある。	坂元小
			A	各教育活動における取組の努力事項を設定し、実践してきた。2023年度全国学力学習状況調査において、将来の夢や目標を持っている児童は89.7%であった。	山下小
			A	外部機関（楽天イーグルス未来塾）から、外部講師を招き、「夢」という題で話をいただいた。子どもたちは、夢をもつことの大切さを感じ取っていた。	山一小

「志教育」の推進	「志教育」を通して、児童生徒が人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、自らの在り方や生き方について主体的に探求していきけるよう、学校の取組について一層の推進・充実を図る。	【第6次山元町総合計画・目標指標】 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合(小学校6年生、中学校3年生) 中間値(2023年)小87.0%、中75.0%、目標値(2028年)小90.0%、中78.0% を達成するための取組の推進	A	全国学力・学習状況調査の回答によれば、91.6%の児童が将来の夢や目標を持っている。各学年における計画立てた指導の効果と考えられる。	山二小
			A	学校教育目標の具現化として掲げている「自己実現に向けた進路指導の徹底」を軸に、各学年における取組や外部の人材を招いて行う「夢志の教室」を実施した。今後も各取組の実施方法に工夫を凝らし、主体的に学ぶ意欲と目標を持って努力していけるようにしていきたい。	山元中
			A	「志シート」や「キャリアパスポート」を活用し、児童・生徒一人一人に目標をもたせ、その目標達成に向け実践・努力させることを繰り返してきている。また、「山元の子ども3つの約束」についても、目標-実践-振り返りのサイクルを大切にし主体的に取り組む態度を育成してきている。さらに、中学校では、夢に向け努力している方々の話を聞く「夢志の教室」を開催するなど、夢や目標に向け主体的に努力する姿勢の育成に努めた。	教育総務課
	【その他の評価指標】「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた児童生徒の割合(小5・中1)※ 「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計			「将来の夢や目標を持っている」 小：88.6% 中：73.6% (県一小：87.7% 中：78.3%) 「人の役に立つ人間になりたいと思う」 小：91.4% 中：94.4% (県一小：94.2% 中：95.4%)	

(2) 道徳教育の推進

重点的事項 1

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
規範意識の醸成やコミュニケーション能力の育成	道徳教育、各教科等での指導、各種体験活動・文化活動等を通して、豊かな人間性や社会性を育てるとともに、特に規範意識、コミュニケーション能力の育成を図る。	「特別の教科 道徳」と他教科との横断的なつながりや地域、児童生徒の実情に応じた重点的な指導の充実	B	地域のよさに気付くと共に誇りに思えるような体験活動や学習を取り入れながら、豊かな人間性を育むことができるような段階的な指導を行っている。 限られた人間関係の中で社会性を養うのは限界がある。	坂元小
			B	各教科においては全人的な視点から内容をとらえて指導にあたり、特別の教科道徳と密接に関係を持ちながら指導方法を工夫し、教材の開発・活用を行ってきた。	山下小
			A	道徳科に限らず、学校教育全体を通して、心豊かな児童の育成に取り組むことができた。	山一小
			B	各教科等において重点化する道徳的な価値を設定していたが、指導者の意識化にやや課題がある。	山二小
			B	「特別の教科道徳」と他教科とのつながりを意識して指導することができた。	山元中

<p>規範意識の醸成やコミュニケーション能力の育成</p>	<p>道徳教育、各教科等での指導、各種体験活動・文化活動等を通して、豊かな人間性や社会性を育てるとともに、特に規範意識、コミュニケーション能力の育成を図る。</p>	<p>各種体験活動・文化活動（中学校は部活動も含む）等における指導の充実</p>	<p>A</p>	<p>地域の産業や伝統文化に親しむための体験活動を多く設定し、地域への愛着や理解を深めることができています。</p>	<p>坂元小</p>
			<p>A</p>	<p>校外学習や体験活動、縦割り活動を計画し、志教育と連動させながらよりよい人間関係の構築に努めている。</p>	<p>山下小</p>
			<p>A</p>	<p>芸術鑑賞（クラリネット演奏会）や学習発表会等での活動を通し、重点的に指導を行うことができた。</p>	<p>山一小</p>
			<p>A</p>	<p>様々な校外学習の充実を図っている。また、地域学校協働活動や外部講師活用等、様々な人々と交流する場を設定することができた。</p>	<p>山二小</p>
			<p>A</p>	<p>体験活動や部活動等を通して、豊かな人間性や社会性を育てることができた。</p>	<p>山元中</p>
	<p>豊かな人間性や社会性、規範意識、コミュニケーション能力を育む道徳教育の実践</p>	<p>B</p>	<p>温かく協力的な地域性のもと、日常的な道徳指導や積極的な生徒指導を行うことで、人間性や規範意識は醸成されるものの、社会性については個人差が大きい。</p>	<p>坂元小</p>	
		<p>A</p>	<p>主体的・対話的な授業展開を行うとともに、道徳ノートを活用し、振り返りの充実と積み重ねを行うことができた。</p>	<p>山下小</p>	

規範意識の醸成やコミュニケーション能力の育成	道徳教育、各教科等での指導、各種体験活動・文化活動等を通して、豊かな人間性や社会性を育てるとともに、特に規範意識、コミュニケーション能力の育成を図る。	豊かな人間性や社会性、規範意識、コミュニケーション能力を育む道徳教育の実践	B	道徳科を中心に、p4cを活用した取組を実践してきた。しかし、教育過程上での位置づけや道徳科での扱い等課題も出てきた。	山一小
			A	対話を重視した教科学習、p4cを活用した道徳の学習により、豊かな人間性や社会性、規範意識、コミュニケーション能力を育むことができた。	山二小
			B	規範意識に重点を置いて道徳教育を実践することができた。	山元中

(3) いじめ・不登校への対応

重点的事項2

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
いじめ、不登校等に対する教育相談活動の充実	いじめ・不登校等の問題に対応するための人的配置、関係機関との連携を含めた相談体制の整備と相談活動の充実を図る。	SC、SSW、町教育相談員の配置と相談活動の充実	A	適正な配置がなされ、活発な相談活動が行われている。不登校や学校不適応、人間関係や家庭環境の問題等様々な児童生徒、保護者や教職員の相談に対して対応することができた。(SCの年間相談件数643件(1校当たり129件)、SSWの年間対応件数は508件)	教育総務課

いじめ、不登校等に対する教育相談活動の充実	いじめ・不登校等の問題に対応するための人的配置、関係機関との連携を含めた相談体制の整備と相談活動の充実を図る。	専門機関と連携した相談体制の充実、及び各学校における調査（定期的なアンケート調査の実施）及び教育相談（二者・三者面談等の実施）の充実	A	いじめ事案が発生した。週に1回「つながりタイム」という、教師が児童と個別に話す機会を設定し児童の状態や人間関係を把握し、いじめや不登校を未然に防げるよう取り組んでいる。SCの配置により、必要に応じて教育相談できる体制にあり、適時適切に活用できている。	坂元小
			A	SCによる積極的なチャンス相談の実施やSSW、町教育相談員との定期的な情報交換を行った。月1回の学校生活アンケート、QU調査によりいじめの早期発見や実態把握を行い、指導に生かすことができた。	山下小
			B	SCやSSWとの連携を図って取り組めた。また、定期的に二者面談を開催した。	山一小
			A	定期的なアンケート（学校生活・いじめ）を実施した。気になる回答があった児童に対しては、即日聞き取りをし、内容に応じた対応を行った。	山二小
			A	SC、SSWと生徒や保護者と面談を行ったり、SC、SSWと情報交換を行ったりして、生徒理解に努めた。	山元中

いじめ、不登校等に対する教育相談活動の充実	いじめ・不登校等の問題に対応するための人的配置、関係機関との連携を含めた相談体制の整備と相談活動の充実を図る。	要保護対策連絡協議会、いじめ問題対策連絡協議会等の参加や運営等児童生徒を守る取組の推進	A	年間2回のいじめ問題対策連絡協議会を開催、町内各校のいじめ認知状況及びいじめ未然防止の取組等について報告、共通理解を図ることができた。関係機関の取組についても共有することができた。 要保護対策連絡協議会（年3回開催）に参加し該当児童生徒の状況を共有した。	教育総務課
		すべての児童生徒が「行きたくなる学校づくり」の推進	A	基本的には、ほとんどの児童の足が向いている。家庭内の事情で休みがちのとなる児童が見られたが改善している。	坂元小
			B	QU調査の結果に基づいて手立てを講じ、よりよい人間関係を構築するとともに、一人一人の居場所作りに努めてきた。	山下小
			A	一人一人の子どもに寄り添った生徒指導を充実させることができた。	山一小
			B	日々の児童との対話、Q-Uテスト等の客観的な調査により、児童の不安や人間関係の把握に努め、対処することができた。	山二小
			B	生徒と触れ合う時間を多くするように努め、生徒会活動としていじめ撲滅運動を行った。	山元中
		「チーム学校」としての不登校の未然防止、早期発見・対応、ケース会議、継続的な指導支援等への取組	B	全職員で情報を共有し、多くの目でも見守る体制はできている。登校を渋る児童についても、教室に入れるよう積極的に関わっている	坂元小

いじめ、不登校等に対する教育相談活動の充実	いじめ・不登校等の問題に対応するための人的配置、関係機関との連携を含めた相談体制の整備と相談活動の充実を図る。	「チーム学校」としての不登校の未然防止、早期発見・対応、ケース会議、継続的な指導支援等への取組	B	不登校児童や集団への適応が難しい児童に対して、ケース会議を定期的で開催し、チームとして対応にあたりるとともに、保護者との十分な連携を構築してきた。	山下小
			A	定期的に生徒指導の研修会を開くなど、教職員のスキルアップに努めることができた。	山一小
			A	生徒指導上の問題や発達障害のある児童について、生徒指導主任や特別支援教育コーディネーターが中心になってケース会議を開いて対応策を練るなど、組織で対応できた。	山二小
			A	毎月のいじめアンケートの実施、毎週の教育相談部会の開催、毎月の生徒指導部会で情報交換を行った。	山元中
	【その他の評価指標】「自分にはよいところがあると思う」「学校には行くのは楽しい」と答えた児童生徒の割合（小5・中1）※「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の計	「自分にはよいところがあると思う」 小：72.9% 中：77.8% (県一小：75.6% 中：72.2%) 「学校には行くのは楽しい」 小：71.4% 中：87.5% (県一小：81.2% 中：82.7%)			

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向2 確かな学力の育成

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の定着と活用する力の伸長

重点的事項3

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
知識・技能 と活用する 力の伸長	「確かな学力」を育成するために基礎的・基本的な知識・技能を習得するとともに自らの考えや思いを表現する力を育てる。	基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための取組	B	校内研究の教科を算数科と設定し、「3つの約束」を基に、基礎・基本の徹底に向けた取り組みを行うことができた。	坂元小
			B	児童が意欲的・主体的に取り組むスキルタイムの充実を図った。	山下小
			A	業前のスキルタイムや放課後算数教室を通して、基礎基本となる事項の確実な理解と定着を図ることができた。	山一小
			A	「レディネスをそろえる」ことを各学年の学習指導上の重点事項とし、習熟の時間や家庭学習等で既習事項の定着を図った。	山二小
			A	授業と家庭学習を結び付けるとともに、小テストなどを通して基礎学力の定着と更なる学力向上を図るように努めた。	山元中
		教職員共通理解のもとでの統一した学習規律の指導	A	「3つの約束」を教職員間で共通理解し、共通認識の基、取り組むことができた。	坂元小
			A	「学びの基本」リーフレットを計画的に活用し、全学年が統一した内容で指導を積み重ねてきた。	山下小

知識・技能 と活用する 力の伸長	「確かな学力」を育成するために基礎的・基本的な知識・技能を習得するとともに自らの考えや思いを表現する力を育てる。	教職員共通理解のもとでの統一した学習規律の指導	A	全校で統一することを、職員会議や担任会の場で共通理解を図り、実践することができた。	山一小		
			A	「学びの基本」を各学年の各教科指導で徹底するよう、定期的に確認した。	山二小		
			A	小中研究主任者会で作成している「学びの基本」をもとに統一して指導を行った。	山元中		
		「学びに向かう力、人間性など」の非認知能力の育成	B	「失敗をおそれず、しなやかに生きる児童」を目標に取り組んできたものの、個人差が大きく、さらに個別の対応が必要である。	坂元小		
			A	PDCAサイクルを児童自身が回すことができるように、学習目標、実践、振り返りを意識した授業展開を行ってきた。	山下小		
			B	継続して学習に取り組むことの大切さに気付かせる取組を続けてきた。	山一小		
			B	「できるまで頑張ろうとする姿勢」について、保護者アンケートで9割の肯定的な回答を得ることができた。	山二小		
			B	非認知能力を推し量るのが難しかった。	山元中		
		学力向上に向けた学習習慣の確立	保護者とも連携を図り、基本的学習習慣を確立を図る。	自ら進んで取り組む自主学習の習慣化	A	学校だよりや各学年からのお便りで、保護者へ周知し、連携への理解を得るよう努めた。概ね理解いただき、協力的な家庭が多い。	坂元小

学力向上に向けた学習習慣の確立	保護者とも連携を図り、基本的学習習慣を確立を図る。	自ら進んで取り組む自主学習の習慣化	B	自主学習の内容例を示し、よい取り組み内容が広がるように「king of自主学習」コーナーを設置したりした。	山下小
			A	子どもたちに、短期的長期的目標を考えさせることを通し、自主学習の習慣化を図ってきた。	山一小
			B	懇談会や学級だよりで学習の仕方を保護者に説明し、家庭学習カードへの記入やノート・プリントへの添削で評価を示す流れが確立してきている。	山二小
			A	教員が毎日の自主学習帳をチェックしてコメントを添えて返却し励ますことで、習慣化を図った。	山元中
	家庭学習の習慣化を図る。	【第6次山元町総合計画・目標指標】 家庭学習をしている児童生徒の割合（小学校6年生60分以上・中学校3年生3時間以上/日）の 中間値(2023年)小65.0%、中11.0%、目標値(2028年)小68.0%、中14.0% を達成するための取組の推進	B	各学年の発達段階における内容や量などについて、職員間で共通理解し、家庭との連携を図りながら家庭学習の習慣化を目指し取り組んだ。家庭学習時間については概ね達成されているものの、質的な部分には差があるのが実情であり、個別の対応等、改善していく必要がある。	坂元小
			B	取り組んだ内容、時間が分かるような家庭学習カードを工夫した。また、算数の宿題はi-temを活用し、学習量の確保に努めた。2023年度全国学力学習状況調査において、1時間以上の家庭学習をしている児童は57.7%であった。	山下小

学力向上に向けた学習習慣の確立	家庭学習の習慣化を図る。	<p>【第6次山元町総合計画・目標指標】</p> <p>家庭学習をしている児童生徒の割合（小学校6年生60分以上・中学校3年生3時間以上/日）の中間値(2023年)小65.0%、中11.0%、目標値(2028年)小68.0%、中14.0%を達成するための取組の推進</p>	A	日々の家庭学習に対して、担任によるコメントによる意欲付けの他に、週末課題（作文）には管理職が朱書きを入れるようにした。その取組を両輪として、家庭学習の習慣化を図るための意欲付けを行ってきた。	山一小
			A	全国学力・学習状況調査の回答によれば、平日に1時間以上の家庭学習をしている児童は66.7%である。1学年から継続している家庭学習の習慣化を目指した指導の成果である。さらに向上するよう工夫した取組を行う。	山二小
			C	部活動終了時刻が午後6時15分、完全下校時刻が午後6時30分という中で、3時間以上の家庭学習を実施するのは非現実的である。実施時間のみを重視するのではなく、効率的かつ効果的な家庭学習の実施が重要であると思われる。	山元中
			B	<p>全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙)によると家庭学習をしていると答えた本町の児童生徒は、小学校6年生(60分以上)58.8%、中学3年生(3時間以上)3.6%となっており、中間値に達していない。県平均が小学生58.4%、中学生6.8%であることから一定の学習時間は確保していると考えられる。（中学生は調査時期が中総体前であることを考慮する必要がある。）</p> <p>「3つの約束」を通じた意識化により、家庭学習の習慣化が図られてきていると思われる。</p>	教育総務課

学力向上に向けた学習習慣の確立	児童生徒の基礎学力向上を図るため、放課後や夏季休業中等の学習支援を実施する。	補助事業を活用した外部指導者による学習支援	C	バスや自転車通学の児童がいることから、時間設定が難しい。	坂元小
			A	「まなびの森」による算数授業支援と放課後算数教室を行った。	山下小
			A	外部講師は、子どもたちに常に温かく接し、子どもたちの実態に合わせ学習支援に当たっていた。	山一小
			A	授業時間は学習に苦勞している児童の学習補助、放課後学習会では希望児童の学習補助を行うことで、基礎学力の向上を図った。	山二小
			A	学びの森による放課後学習会を活用していた。	山元中
			A	国の緊急スクールカウンセラー事業を活用し、小・中学校の授業、放課後、長期休業中の学習支援を実施。また、坂元・山下の両地区の地域交流センターで夜間学習支援を実施。	教育総務課
			【その他の評価指標】 「家庭学習時間」(小6、中3：1時間以上) 「授業が分かる」と答えた児童生徒の割合(小6・中3) 「テレビゲームの時間」(小6、中3：1時間以内)		

(2) 「分かる授業」への授業改善

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
教科指導力の 向上	児童生徒に「分かる喜び」 が実感できる授業を展開す るため、小中連携による協 働の授業づくりを推進す る。	町内小中学校の連携による研 究の充実に向け、研究主任を 中心とした組織的・計画的な 推進	A	町の研究と校内研究を連動し、研究主任を中心と して計画的に推進できた。	坂元小
			A	「自分の言葉で表現し、互いに高め合う児童の育 成」を町内共通の研究主題とし、校内においては 全員1回の授業研究と協働による授業づくりを計 画的に実施した。	山下小
			A	連携サポート事業を核とし、研究主任を中心に、 町内小中学校が掲げる教育課題改善に向け、計画 的に取り組むことができた。	山一小
			A	研究主任がリーダーシップを発揮し、指導案の作 成、検討会、模擬授業、事後検討会等、協働によ る授業づくりが形となってきている。	山二小
			A	小中研究主任者会や市町村教育委員会との連携サ ポート事業を通じて、町内の小学校と連携した。	山元中
		B	本校児童の実態を捉え、主体的に学習に臨むこと を目標とし、研究教科である算数科を中心に取 組むことができた。	坂元小	
		「主体的・対話的で深い学 び」の実現に向けた授業改善 に取り組むことで、「自分の 思いや考えを表現する力」の 育成			

教科指導力の向上	児童生徒に「分かる喜び」が実感できる授業を展開するため、小中連携による協働の授業づくりを推進する。	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むことで、「自分の思いや考えを表現する力」の育成	B	意見交流を重視した授業展開を工夫し、積極的に考えを交流するためのハンドサインを活用するなど、授業改善に取り組んできた。	山下小
			A	校内での研究授業や附属小学校教諭による出前授業、さらには職員研修会等を開催することを通し、「分かる喜び」が実感できる授業の展開を図ることができた。	山一小
			A	指導者によるファシリテートの在り方が、様々な校内研究・学力向上の話合いや職員室内での話題になることが多く、児童が考えを表現することへのサポートの意識が高まっている。	山二小
			B	校内研究を通じて「授業改善」を意識して実践に取り組むことができた。	山元中
		【第6次山元町総合計画・目標指標】 「授業の内容がよく分かる」と答えた児童生徒の割合(小学校6年生、中学校3年生)において 中間値(2023年)小80.0%、中72.0%、目標値(2028年)小83.0%、中76.0% を達成するための取組の推進	B	町内小中学校の研究を教職員で共通理解し、分かる授業をめざし算数科で学習支援員を活用しながら中心に取り組むことができた。 個別の支援を要する児童が多く、母体数が少ないことから目標値に達するところまでは至っていない。	坂元小
			B	連携サポート事業を活用し、授業づくりに取り組んできた。2023年度全国学力学習状況調査において、「国語の授業の内容はよく分かる」児童は80.8%、「算数の授業の内容はよく分かる」は76.9%であった。	山下小

教科指導力の向上	児童生徒に「分かる喜び」が実感できる授業を展開するため、小中連携による協働の授業づくりを推進する。	【第6次山元町総合計画・目標指標】 「授業の内容がよく分かる」と答えた児童生徒の割合(小学校6年生、中学校3年生)において 中間値(2023年)小80.0%、中72.0%、目標値(2028年)小83.0%、中76.0% を達成するための取組の推進	A	子ども一人一人の実態把握に努め、子どもの理解度に合わせた子どもに寄り添った授業実現に努めることができた。	山一小
			A	全国学力・学習状況調査の回答によれば、国語の授業の内容がよく分かる・算数の授業がよく分かるとした児童は共に100%であった。一人一人の実態に応じた丁寧な指導が児童に認められていると捉えられる。	山二小
			B	互いの授業を参観し合うことで、分かる授業への改善のヒントを得ることができていた。	山元中
			B	総合教育センターの「市町村教育委員会との連携による学校サポート事業」の指定教育委員会となり、各学校では算数・数学の授業を中心に指導法の改善に努めた。その結果、「授業の内容はよく分かりますか」に「当てはまる・どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童生徒は国語：小5－87.1%、小6－90.4%、中1－88.9%、中3－77.4%、算数・数学：小5-85.7%、小6－82.5%、中1－94.4%、中3－79.8%、理科：中3－70.3%、英語：中1－73.6%となっている。（宮城県児童生徒学習意識等調査（小5・中1）、全国学力・学習状況調査（小6・中3）による） 学習内容の定着の面から更なる指導法の改善・工夫は必要であると考えられる。	教育総務課

教科指導力の向上	教員を対象に、指導力向上に向けた研修会等を開催する。	T Tによる指導、少人数指導等効果的な指導体制の充実	A	p 4 c の研修や連サポを通して各教科おける指導力を向上できた。	坂元小
			A	算数の授業は少人数もしくはTTにより、習熟度に応じた指導をした。また、個別指導や複数人によるスキルタイムのサポートを行った。	山下小
			A	定期的に校長による指導要領に関する講話や研修会を開催し、教師の指導力向上に努めた。	山一小
			B	TT等は実施していないが、教員が授業の構想を練る時間や児童の取組を点検する時間を確保するなどの時間は充実させている。	山二小
			B	教員の病気休暇により、数学科におけるTTによる指導、少人数指導等の実施が難しかった。	山元中

(3) ICT教育の推進

重点的事項 4

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
高度情報化社会への対応	情報活用能力の育成とともに、情報モラル教育を推進する。	各教科における情報活用能力の指導の充実や「スマホ携帯安全教室等」の情報モラル教育の実施	A	ICTを活用した授業の中で、段階的に情報活用や情報モラル教育について指導できた。	坂元小
			A	情報リテラシー指導計画に基づき、発達段階に応じて計画的に指導を行った。	山下小
			A	各教科において、タブレットを活用した授業の推進に努めた。また、総合教育センター作成動画を利用し、情報モラルについて考えさせた。	山一小

高度情報化 社会への対 応	情報活用能力の育成とともに、情報モラル教育を推進する。	各教科における情報活用能力の指導の充実や「スマホ携帯安全教室等」の情報モラル教育の実施	B	各学級において随時指導を行っている。また、教員間でも、インターネット活用の留意点等について共通理解を図っていた。	山二小
			A	タブレットPC活用のルールを確認して、各教科で指導に当たることができた。また、情報教育講演会を通して、情報モラルに対する指導を行った。	山元中
	「わかる授業」の実現と学びの保障を図る。	授業における効果的・効率的なICTの活用と、教員のICT活用能力の向上のための研修会の推進	A	ICT支援員と連携しながら、授業におけるICTの積極的な活用と有用な活用について検討しながら展開できた。また、教職員相互が学び合いながら活用できるようになってきた。	坂元小
			A	すべての教科の授業において、積極的にICTを活用し、活用方法の工夫について情報交換をしながら、よい取組を広めるようにしてきた。	山下小
			A	ICT支援員の協力をいただきながら、積極的に授業でのICT活用を図った。また、ICT担当者が中心となり教職員のスキルアップ研修会を随時開催した。	山一小
			A	長期休業中に、ICT支援員が中心となり、教員を対象としたICT研修会を行うことができた。	山二小
			A	各教科において、本時のねらいを達成するために様々な場面でICTを活用することができた。また、ICT活用研修会を実施し、教員のICT活用能力の向上を図った。	山元中

高度情報化 社会への対 応	「わかる授業」の実現と学 びの保障を図る。	臨時休業等の緊急時における ICT活用による学びの保障	C	タブレットの持ち帰りを行うまでの体制は確立さ れていない。今後検討していく。	坂元小
			B	家庭でのネットワーク環境調査と、持ち帰って課 題に取り組ませる試行をした。	山下小
			A	週1回のタブレット持ち帰り家庭学習を通し、日 頃から家庭での学びに慣れさせてきた。	山一小
			B	児童がタブレットPCを家庭に持ち帰るための環 境整備に時間がかかってしまったが、次年度持ち 帰るための準備はできた。	山二小
			C	各家庭のインターネット環境の格差が見られ、持 ち帰り学習を行うことができなかった。オフライ ンアプリの活用を検討していきたい。	山元中
	高度情報化社会への対応、 校務の情報化、学力向上等 を支援するため、学校にお けるICT環境の充実を図 る。	ICT環境の検討・整備・充 実・更新の計画推進	A	ICTを活用した授業等を促進させるため、ICT支 援員を配置した。また、ICTによる学習環境の向 上のため、小・中学校にタブレット用ドリルソフ トの導入を行った。	教育総務 課

(4) 国際理解を育む教育の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
国際理解教育の推進とコミュニケーション能力の育成	地域や日本の伝統・文化とともに、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせ、国際化社会で活躍できる人材を育成する。	英語力向上に向けた授業を推進し、主体的にコミュニケーションを図る態度を育成	A	ALTとの連携で、よりネイティブな英語をに触れながら、主体的に外国語の学習に取り組むことができている。 高学年では、主体性に個人差が見られる。	坂元小
			B	年間指導計画に基づき、英語を用いたコミュニケーションの楽しさを体験できるように指導してきた。	山下小
			A	ALTの補助をいただきながら、計画的に外国語活動を進めることができた。	山一小
			A	ALTと教員の打合せ、教員同士の打合せを綿密に行い、児童の発達状況に合わせた指導を行うことができた。話すこと・聞くことを重視した授業づくりができた。	山二小
			A	スピーチやスモールトークを継続して行うことにより、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができた。	山元中
		各教科等での指導を通じた異文化理解とそれを尊重する態度の育成	A	外国語の学習と共に、高学年では社会科で他国と自国の関係や違いについて関心を持ち、尊重できるような態度が育ってきている。	坂元小
			A	各教科等においても、単元計画に基づき、異文化理解を進める指導を行った。	山下小

国際理解教育の推進とコミュニケーション能力の育成	地域や日本の伝統・文化とともに、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせ、国際化社会で活躍できる人材を育成する。	各教科等での指導を通じた異文化理解とそれを尊重する態度の育成	A	ICTを活用して外国の歴史について調べ学習を行い、異文化理解を深めることができた。	山一小	
			A	教科学習で触れる外国文化、ALTの母国（フィリピン）、外部講師の活動国（キリバス）等、様々な学びの機会を設けることができた。	山二小	
			B	社会、英語、道徳等で異文化理解とそれを尊重する態度を育成した。	山元中	
	地域人材やALT等を活用した交流（体験）活動の推進			B	国際理解教育の機会が少ないものの、総合的な学習等で地域学習を推進し、地域の歴史や文化に触れる機会を多く取り入れた。	坂元小
				A	校内行事や休み時間においてもALTが児童と交流するようにした。	山下小
				B	ALTの出身国の文化や生活について、ALTから直接話を聞き理解を深めることができた。	山一小
				B	外国語・外国語活動以外の時間においても、児童とALTの交流の場を設け、互いを知り合うことを推進することができた。	山二小
				C	地域人材を活用することがあまりできなかった。	山元中
	小・中学校へのALTの配置と活用			A	ALTとの連携で、よりネイティブな英語に触れながら、主体的に外国語の学習に取り組むことができています。	坂元小

国際理解教育の推進とコミュニケーション能力の育成	地域や日本の伝統・文化とともに、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせ、国際化社会で活躍できる人材を育成する。	小・中学校へのALTの配置と活用	A	ALT配置計画に基づき、計画的に活用した。	山下小
			A	ALT来校日に合わせ計画的に授業を進めることができた。	山一小
			B	ALTが加わる授業を軸に、計画的に外国語・外国語活動の授業を行うことができた。	山二小
			A	常勤のALTを計画的に活用して授業を実施した。	山元中
			B	小学校は、派遣契約に切り替えることが出来た。中学校は、帰国が決定したため帰国のための予算取りなど準備を進めることが出来た。	教育総務課

(5) 特別支援教育の充実

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
特別支援教育の推進	将来的な自立や社会参加に向けて、発達障害を含め一人一人の発達段階や障害に配慮した校内支援体制等を構築する。	特別支援教育用教材の購入及び特別支援教育支援員の配置と活用	A	第1学年は自閉・情緒、肢体不自由の特別支援学級が設置され、また、配慮の必要な児童もいることから、特別支援員支援員の配置は有効であり、不可欠である。	坂元小
			A	特別支援教育支援員4名の配置により、児童のニーズに応じた個別支援を実践することができた。	山下小
			A	特別支援教育員を複数名配置していただき、児童の実態に合わせ活用することができた。	山一小

特別支援教育の推進	将来的な自立や社会参加に向けて、発達障害を含め一人一人の発達段階や障害に配慮した校内支援体制等を構築する。	特別支援教育用教材の購入及び特別支援教育支援員の配置と活用	A	特別支援教育支援員を活用し、特別支援学級における個の実態に応じた指導を推進することができた。	山二小
			B	生徒の実数に対し、特別支援教育支援員が不足していたが、支援員は精力的に学習支援を行ってくれた。	山元中
			A	各校の児童・生徒の実態に応じ、特別支援教育支援員を配置し校内支援体制を構築することで児童・生徒一人一人に寄り添った支援を充実することができた。	教育総務課
		校内における指導・協力体制の確立、町内交流会の実施等	A	特別支援コーディネーターを中心に、校内の指導体制の整備がなされ、適切な指導・支援ができています。	坂元小
			A	特別支援コーディネーターを中心に支援体制が整備され、共有した情報に基づいて適切な指導・支援が行えるようになっている。	山下小
			A	町内交流会を通し、広く人と人との関りを学ばせることができた。	山一小
			A	職員の打合せを中心とした情報共有の機会を十分確保するなど、職員全員で児童を育てる体制の確立に努めた。	山二小
			A	校内での協力体制はしっかりと確立されており、臨機応変に緊急時の対応を行っている。また、町の交流会にも積極的に参加した。	山元中

特別支援教育の推進	将来的な自立や社会参加に向けて、発達障害を含め一人一人の発達段階や障害に配慮した校内支援体制等を構築する。	教育、医療、福祉、保健等との連携のもと、「個別の教育支援計画」を作成し、支援体制の充実を図る。	A	個別の支援計画を作成し、それに基づいて効果的な支援を行うことができている。	坂元小
			B	関係機関、保護者と連携し、個別の教育支援計画を作成し、活用した。	山下小
			A	関係機関のご指導や保護者の願いを基に、個別の教育支援計画を作成し、計画的に取り組むことができた。	山一小
			A	「個別の教育支援計画」を作成し、児童の生育状況を整理し、計画的に指導を行うことができた。	山二小
			A	「個別の教育支援計画」を特別支援学級の生徒1人1人に作成し、面談時に保護者に説明を行い、支援の方向性を確認している。	山元中
	「個別の指導計画」を活用し、個に応じた指導や支援の充実を図る		A	個別の指導計画を作成し、それに基づいて児童の実態に応じた指導を計画的に実施できた。	坂元小
			B	個別の指導計画を活用し、個に応じた指導・支援を行った。	山下小
			A	関係機関のご指導や保護者の願いを基に、個別の指導計画を作成し、取り組めた。	山一小
			A	関係する職員で共有するなど、個々の児童の支援体制の充実を図ることができた。	山二小
			A	「個別の指導計画」を学期毎に作成し、計画的に見直しを図った。	山元中

特別支援教育の推進	地域における特別支援教育に関する相談・支援機能を持つ山元支援学校との連携・充実を図る。	特別支援教育連絡協議会、教育支援委員会等における協力	A	特別支援連携協議会及び教育支援委員会の委員を委嘱し、専門的な立場から助言をいただいた。また、連携協議会では、講話をいただき、委員の資質向上につなげることができた。	教育総務課
		幼児学級での観察・指導助言、就学予定児童に関する教育相談、就学先合意形成における指導助言等	N	今年度に関しては該当児童なし	坂元小
			A	地域支援コーディネーターによる的確な観察及びそれに基づく指導助言は、指導方法や指導体制を検討する上で大変参考となった。	山下小
			B	山元支援学校と定期的に連絡をとり連携を深めてきた。	山一小
			A	幼児学級については、できるだけ多くの教員で就学予定児童を観察し、特別な対応を要する場合は検討会を設け、入学後の体制づくりに役立てることができた。	山二小
			A	地域支援事業を活用し、支援学校のコーディネーターに参観してもらうことで、専門的な見地から幼児の様子を学校、教育委員会とで共有することができた。	生涯学習課
			A	幼児学級（2回目コロナのために中止）では、子供たちの様子を観察してもらい適切な助言をいただいた。また、就学相談では専門的な立場から助言をいただき、就学先の合意形成につなげることができた。	教育総務課

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向3 健やかな身体の育成

(1) 知育・徳育にもつながる基本的な生活習慣の定着

重点的事項5

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学力向上に向けた基本的な生活習慣の確立	インターネットやスマホ、ゲーム等メディア利用の乱れと基本的な生活習慣や学力への影響についての理解を深める。	適切なメディア利用の指導・啓発	A	「3つの約束」を基に、学級だよりや集会等で生活指導を行うと共に、ノーゲーム・ノーテレビデーなどの取組も行った。	坂元小
			B	保健体育の授業や生活集会において、適切なメディア利用についての指導を行った。	山下小
			A	「早寝早起き朝ごはん」を継続実施することの大切さと、ゲーム等のやりすぎの弊害について、機会があるたびに指導を続け、理解を深めさせることができた。	山一小
			A	メディアコントロール指導（1日1時間以内）、「山二の日」の推進を継続して行うなど、適切なメディア利用の指導・啓発を行うことができた。	山二小
			B	町のICT支援員の協力を得ながら、適切に指導することができた。	山元中
	心身の健康への意識の高揚を図る。	児童生徒の生活実態の把握と指導への活用	A	「つながりタイム」を設定し、児童の心身の状態を把握しようと努めている。	坂元小
A			各種アンケートから生活実態を把握し、継続して指導した。	山下小	

学力向上に向けた基本的な生活習慣の確立	心身の健康への意識の高揚を図る。	児童生徒の生活実態の把握と指導への活用	B	アンケート結果を基に、日々の生活指導を通して啓発を続けた。	山一小
			A	「健康生活アンケート」を実施し、食事や運動、睡眠等について把握し、指導した。	山二小
			B	養護教諭と協力して指導することができた。	山元中
	町内全校共通の「3つの約束」を下敷き等にして児童生徒に配布・指導するとともに、保護者とも連携を図り、基本的な生活習慣を確立する。【28年度から】	児童生徒に対する「3つの約束」の意識化と主体的な取組の指導	A	基本的な生活習慣については集会での生活指導や学年だよりで積極的に啓発・指導し意識化が図れている。また、家庭学習についても習慣化できるよう励ましながら取り組んでいる。	坂元小
			B	児童主体のメディアコントロールチャレンジを行った。	山下小
			A	「3つの約束」について、学級での指導や朝会で機会があるごとに取り上げ、啓発を続けてきた。	山一小
			B	「3つの約束」について、各学級で話し合う時間を設けるなど、児童の意識化を推進することができた。	山二小
			A	「3つの約束」に関するアンケート調査結果を基に、生徒会が中心となり集会等を行った。	山元中
			B	児童生徒に対し「3つの約束」を自分ごととして意識させるための主体的な取組を推進するよう教務主任者会で働きかけた。アンケートの実施、p4cによる話し合いなどの実践が見られた。	教育総務課

学力向上に向けた基本的な生活習慣の確立	町内全校共通の「3つの約束」を下敷き等にして児童生徒に配布・指導するとともに、保護者とも連携を図り、基本的な生活習慣を確立する。【28年度から】	保護者への適切な啓発と連携	B	学校だよりや学年だよりで啓発を図り、概ね協力を得ながら推進できている。	坂元小
			A	懇談会において、3つの約束の取組について保護者に説明し、啓発をしている。	山下小
			A	PTA総会や保護者との懇談会等を通し、保護者に対して機会があるごとに啓発を続けてきた。	山一小
			B	各種調査の結果を、保健だより等で保護者に伝え、改善を促すようにした。	山二小
			A	PTA学年学級懇談会等を通して啓発を行った。	山元中
学校保健の充実	学校保健計画に基づく児童生徒の健康保持増進、家庭や医療機関との連携による学校保健の充実を図る。	健康診断、環境衛生検査等の実施	A	養護担当を中心に健康診断、環境衛生検査等を計画的かつ適正に実施できた。	坂元小
			A	健康診断、環境衛生検査等を適切に実施した。	山下小
			A	健康診断を計画的に実施し、子どもたちの健康保持増進に努めた。	山一小
			A	健康診断、環境衛生検査等について、養護教諭を中心に計画的に行うことができた。	山二小

学校保健の 充実	学校保健計画に基づく児童 生徒の健康保持増進、家庭 や医療機関との連携による 学校保健の充実を図る。	健康診断、環境衛生検査等の 実施	A	健康診断は事前指導から事後指導まで計画通り実施することができた。環境衛生検査では基準を満たし安全・安心な環境を保持することができた。	山元中
			A	各関係機関や各学校との連携に努めた結果、コロナ禍ではあるものの計画通り実施することができた。	教育総務課
		健康保持増進につながる日常的な指導、環境整備等	A	外遊びを推奨し、教師も一緒に遊ぶなど、進んで運動する機会や環境ができています。	坂元小
			A	虫歯予防に向けた日常的な歯磨き指導を行った。	山下小
			A	手洗いうがい、十分な睡眠と食事摂取等の指導を日常的に行ってきた。	山一小
			A	校舎内に危険箇所がないか、月1回の定期的な点検や日々の点検を細やかに行った。	山二小
			A	保健室来校者に対する指導資料を作成し、個別指導の充実を図ることができた。	山元中
			保健だよりの発行等による家庭との連携	A	定期的に発行し、児童の状態や課題を家庭と共有したり、啓発したりできている。
		A		毎月定期的に保健だよりを発行し、健康に関する情報発信を行うとともに、家庭への啓発を行った。	山下小
		A		疾病予防の基本的情報を、保健だよりで知らせることで、予防喚起を図ることができた。	山一小

学校保健の 充実	学校保健計画に基づく児童生徒の健康保持増進、家庭や医療機関との連携による学校保健の充実を図る。	保健だよりの発行等による家庭との連携	B	保健だよりを活用し、季節・時期に応じた健康面に関する呼びかけを行うことができた。	山二小
			B	季節に応じた内容や生徒の健康観察を取り上げた保健だよりを作成し保護者への啓発を行うことができた。	山元中
	学校保健会の開催等による学校医との連携	A	本校の児童の状況を共有し、適切な助言を行うなど、良好な連携体制が確立している。	坂元小	
		B	年間計画に基づく学校保健委員会を開催し、指導事項を教育活動に反映するよう努めた。	山下小	
		A	学校医との情報交換や連携による指導を密にすることができた。	山一小	
		A	学校保健会でいただいた助言について、職員で共通理解をするとともに、おたよりで保護者にも発信した。	山二小	
		B	学校保健委員会は新型コロナウイルスの影響で紙面開催としたが、健康診断時や電話等で指導助言をいただき、生徒の健康管理に役立てることができた。	山元中	
	【その他の評価指標】 児童生徒の肥満率や虫歯の保有率の改善傾向	肥満率(軽度・中等度・高度肥満の合計の割合) : R1 小-13.6% (男14.2%、女12.9%)、中-14.1% (男15.4%、女12.9%) R2 小-18.7% (男21.0%、女15.6%)、中-15.8% (男18.1%、女13.5%) R3 小-22.2% (男20.0%、女24.9%)、中-15.3% (男16.6%、女13.6%) R4 小-21.7% (男23.7%、女19.3%)、中-17.0% (男16.2%、女17.9%) 虫歯保有率 (未処置歯所有者数の割合) : R1 小-11.4%、中-26.7% R2 小- 8.9%、中-30.0% R3 小- 6.3%、中-24.1% R4 小- 3.3%、中-17.7%			

(2) 体力・運動能力の向上

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
身体づくり 及び体力・ 運動能力向 上に向けた 取組	授業や行事（中学校は部活動も含む）等を通して、身体づくりについての関心・意欲を高めるとともに、体力・運動能力の向上を図る。	保健体育の授業を中心とした指導の工夫	A	主体的に運動できるような授業づくりと、運動量の確保を意識して取り組むことができた。	坂元小
			A	3分間走を取り入れるなど、運動量を確保する工夫を行って指導に当たった。	山下小
			A	子どもたちの実態を把握し、実態に合わせた指導方法を授業で工夫することができた。	山一小
			A	運動量の確保を重視し、単位時間内の運動時間を十分確保するように留意した。	山二小
		B	グループ活動を中心に話し合い活動やタブレットPCを利用し、自分の動きを確認することができた。	山元中	
		A	運動会や持久走記録会の他に、業間マラソン、業間シャトルラン、縄跳びなど、定期的な活動を取り入れた。	坂元小	
		A	5月に運動会、10月に持久走記録会を実施した。	山下小	
		A	子どもたちが楽しみながら運動に親しむことができるように、行事内容を工夫し実践できた。	山一小	

身体づくり 及び体力・ 運動能力向 上に向けた 取組	授業や行事（中学校は部活動も含む）等を通して、身体づくりについての関心・意欲を高めるとともに、体力・運動能力の向上を図る。	運動会や持久走大会の実施など、体力・運動能力の向上につながる行事の工夫	A	野外活動（5年）や持久走大会に向けたランニング等、学校行事を生かした体力向上に関わる取組を実施することができた。	山二小
			A	部活動を活発に行い、県大会、東北大会に出場するなどの成果をあげることができた。	山元中
		運動習慣の定着	A	上記のような取組の成果か、休み時間は外で元気に遊ぶ児童が多く見られた。	坂元小
			B	業間にパワーアップタイム（5分間走）や縦割り活動で長縄跳びを行った。	山下小
	A		運動することの楽しさ大切さを意識させることができた。	山一小	
	B		感染症拡大予防のため見送っていた休み時間のボール運動を再開することで、外遊びをする児童が増えた。	山二小	
	B		登下校において、保護者による送迎の割合が多く、徒歩、自転車で通学する生徒が少ない。	山元中	
			B	2つの部活動で外部指導者を活用し、仙台大学による部活動支援事業も活用した。	山元中
	(中学校) 地域人材を活用し運動部活動の充実を図る。	外部指導者の活用と地域移行への取組推進	C	土日の部活動地域移行検討において外部指導者及び部活動指導員の活用のため、例規の整備を行う予定。	教育総務課

身体づくり 及び体力・ 運動能力向 上に向けた 取組	体力・運動能力の向上に対 する児童生徒や保護者の意 識の高揚を図る。	運動の重要性やスポーツの楽 しさなどの発信・啓発	B	運動能力調査の結果の共有による課題の把握と啓 発については行えた。 コロナ禍における制限により、保護者も係わるよ うな活動の場を設定できなかった。	坂元小
			A	各種掲示、お便り、ホームページによる情報発信 と、懇談会での啓発を図った。	山下小
			A	学校だよりや保健室だより等を活用し、児童保護 者に対して、運動の重要性の啓発に努めた。	山一小
			A	児童の運動能力や運動習慣の実態について、保護 者、学校運営協議会や学校保健会の委員に発信す ることができた。	山二小
			B	保健体育の授業で運動の重要性やスポーツの楽し さの話をした。また、体のケアについて適宜伝え た。	山元中
			A	スポーツ推進委員の出前教室を活用し、P T Aの 親子行事でポッチャを実施し、親子で運動の重要 性や楽しさを享受できた。	生涯学習 課
			<p>【その他の評価指標】児童生徒の体力・運動能力調査結果に見られる改善傾向(小5、中2)</p> <p>令和4年度 宮城県小中学校 体力・運動能力調査による 握力、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボ ール投げ(小)、ハンドボール投げ(中)のうち<u>県平均を上回っているもの</u>。 小 男子：握力、反復横跳び、ソフトボール投げ 小 女子：握力、上体起こし、反復横跳び、20mシャトルラン、ソフトボール投げ 中 男子：反復横跳び、立ち幅跳び 中 女子：握力、20mシャトルラン</p>		

(3) 食育の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等	
			評価	成果と課題		
食育の推進 と充実	児童生徒が望ましい食習慣を身に付け、将来にわたって健康増進が図られるよう、学校給食や栄養教諭等を活用して、計画的に食育を推進する。	学校給食と各教科等との関連を図った指導の充実	A	給食だよりや保健だより、家庭科での栄養指導と共に、山元中の栄養教諭による指導を通して充実した指導が展開できた。	坂元小	
			B	食に関する年間指導計画を基に、各教科と関連させて食の重要性や食文化、感謝の心を育てた。	山下小	
			A	主に、家庭科や学級活動の時間を活用し食に関する指導を行うことができた。	山一小	
			B	家庭科や体育科の学習を中心に、バランスよく食べることや、三食をきちんととることに指導を行うことができた。	山二小	
			B	各小学校からの食育指導依頼に対し、学校給食を生きた教材として活用することで食に興味関心を持ち、自ら行動しようとする姿が見られた。	山元中	
			栄養教諭等と連携した計画的な指導の充実	A	山元中の栄養教諭と年間の指導計画を立て指導できた。	坂元小
				A	給食委員会が給食メモを昼の放送で読み上げ、食への関心を高めることができた。	山下小

食育の推進 と充実	児童生徒が望ましい食習慣を身に付け、将来にわたって健康増進が図られるよう、学校給食や栄養教諭等を活用して、計画的に食育を推進する。	栄養教諭等と連携した計画的な指導の充実	A	栄養教諭との連携による授業を、計画的に実施する事ができた。	山一小
			B	栄養教諭を講師に招き、食に関する指導を行うことができた。	山二小
			A	山元町食育推進計画を作成し、教育委員会や各学校と情報共有を行うことで、食に関する指導を計画的に実施することができた。	山元中
	【その他の評価指標】「朝食を毎日食べてくる」と答えた児童生徒の割合（小5・中1）		小：80.0% 中：84.7%（宮城県 小：84.2% 中：82.1%）		
	地場産品や町の食文化に触れる機会を設け、子どもたちの食に対する関心・理解を深める。	学校給食への地元食材の積極的な導入	A	地元食材が使われる日は、給食時間の放送で紹介し関心が持てるようにした。	坂元小
			A	積極的に地元食材を導入し、献立表に記載したりお昼の放送で紹介したりした。	山下小
			A	給食に地元食材が豊富に使われていることを、子どもたちに知らせることができた。	山一小
A			給食センターからいただく「給食ひとくちメモ」を放送委員が昼の放送で読み、各教室の児童はしっかり聞くことができている。	山二小	

食育の推進と充実	地場産品や町の食文化に触れる機会を設け、子どもたちの食に対する関心・理解を深める。	学校給食への地元食材の積極的な導入	A	地元のこんにゃくや野菜、調味料を献立に導入した。	山元中
			A	学校給食に地元野菜であるネギ、ミニトマトなど積極的に導入した。また、地元の自然保全米も積極的に導入した。	教育総務課
		郷土料理体験（はらこめしづくり等）などを通じた地元の食材や食文化の指導	B	コロナ禍前に実施していた郷土料理体験のはらこ飯づくりはできなかったが、サツマイモご飯づくりを行った。	坂元小
			B	郷土料理体験を行い、ふるさと教育とも関連して指導を行った。	山下小
			A	地元食材を活用した料理を試食することを通し、地元の食文化について考えさせることができた。	山一小
			B	郷土料理体験（サツマイモごはん）を5学年で実施し、郷土について考える機会にすることができた。	山二小
			N	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、調理実習の実施が難しく、教科書や資料等での学習となったため。	山元中
			B	はらこ飯づくりについて鮭が不漁により確保することが難しく、地元食材や米を使ったメニューに変更し実施した。地元の食材や食文化に興味関心を持てるよう、はらこ飯の作り方や鮭の見分け方、コメ作りなどについて指導した。	教育総務課

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向 4 教育環境・教育活動の充実

(1) 小学校再編の計画的推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
小学校再編	児童生徒数の減少による課題を踏まえ、児童生徒にとってよりよい学び（学校生活）ができるよう、小・中学校の再編に取り組む。	計画的な再編準備の推進	N	R4から小学校再編に取り組む予定であったが、橋元町長にかわり学校再編はまちづくりにも関わることから、関連事務を一旦保留とした。	教育総務課
		再編業務の町民への周知とコンセンサスの醸成	N	正式に決定しているものではないため、積極的には表出してはいない。	坂元小
			N	保護者への情報提供と進行状況を周知した。	山下小
			N	保護者や学区民に対して、特に働きかけは行っていない。	山一小
			N	評価できません。	山二小
			N	該当なし	山元中
			A	小学校再編に対する町民の意見を聞くための町長との懇談会を5回開催し、町長の判断につなげることができた。	教育総務課

(2) 「みのりプロジェクト推進事業」(学校教育充実事業)の推進

重点的事項 6

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校教育の 充実	教育の方向性や取り組むべき課題について協議するとともに、知・徳・体の各領域における課題や改善策について検討し、町全体として学校教育の充実に取り組む。	推進会議および知育・徳育・体育各部会での課題の協議と改善策の推進	A	推進会議では町の教育課題(子どもの育成、学力向上、学校づくり、児童生徒主体の活動、自己肯定感の育成、コミュニティ・スクール推進、幼保小中の連携等)について時宜に応じた協議を行い改善策について方向性を探った。	教育総務課
		知育・徳育・体育の各領域の教育活動の活性化	B	「みのりプロジェクト」と学校教育目標を連動し、教育活動を展開できるよう努めた。	坂元小
			A	重点努力事項「学力の向上」「豊かな心の育成」「体力の向上」それぞれに具体策を設定し、手立てを講じて実践に努めた。	山下小
			A	学校教育目標と関連付け、教職員一丸となり推進に取り組むことができた。	山一小
			A	みのりプロジェクトの目的や取組内容を職員で共通理解し、本校児童の実態に合わせて実施することができた。	山二小
			A	各学校長がリーダーシップを図り、児童生徒及び職場の実態に応じた事業に計画的に取り組んできた。	山元中

学校教育の 充実	教育の方向性や取り組むべき課題について協議するとともに、知・徳・体の各領域における課題や改善策について検討し、町全体として学校教育の充実に取り組む。	知育・徳育・体育の各領域の教育活動の活性化	A	各部会毎に目標設定と計画づくりを行った結果、より計画的な各学校での教育活動の推進につながった。	教育総務課
		関係機関等（大学・幼保・保護者・地域）との連携・協力	B	長野大学と連携し、「たねぷろじえくと」に継続して取り組んでいる。	坂元小
			B	協働型学校評価重点目標を設定し、学校・保護者・地域が一体となって取り組んだ。	山下小
			A	CSやPTAなど、地域を巻き込み連携し、学校教育課題に取り組むことができた。	山一小
			A	仙台大学や町内幼稚園・保育所等と協働で行う取組を通し、教育活動の充実を推進することができた。	山二小
			B	新型コロナウイルス感染防止対策により、中止、縮小の影響はあるが、学校間の連携など可能な範囲で取り組んだ。	山元中
			A	大学との連携による児童への直接指導の研修会や保護者・地域住民を対象に学校運営協議会委員向け研修の実施など連携による学校教育の充実を図ることができた。幼保小による相互参観は互いを知るよい研修となった。	教育総務課

(3) 教職員の働き方改革の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
教職員の健康管理と多忙解消	健康診断事業や勤務時間の把握等を通して、教職員の健康管理、適正勤務について指導支援する。	働き方改革の推進と運用	A	業務内容の見直し、デジタル化等、改善を図り、適正な勤務時間を意識して取り組めた。	坂元小
			B	勤務時間の適正な管理に努めた。また、年休が取得しやすい環境づくりに努めてきた。	山下小
			A	余剰時数の削減等に努め、放課後に時間的に余裕ある日を多く作り出すようにしてきた。	山一小
			A	校務支援ソフトの活用や会議等のスリム化により、超過勤務時間を減らすことができた。	山二小
			B	勤務時間に対する意識改善は図ってはいるものの、まだ途上な場面が見られる。	山元中
			A	校務支援システム及び出退勤管理システムの導入によりIT側面からサポートを行った。	教育総務課
		教職員に対する健康診断事業の実施	A	町の指導を元に、養護担当を中心に適切に実施できた。	坂元小
			A	養護教諭を中心に、各種健診の周知や再診の適切な受診を推進した。	山下小
			A	養護教諭が調整した計画のもと、適宜実施することができた。	山一小
			A	計画通り行うことができた。	山二小

教職員の健康管理と多忙解消	健康診断事業や勤務時間の把握等を通して、教職員の健康管理、適正勤務について指導支援する。	教職員に対する健康診断事業の実施	A	健康診断に関する情報等を適切に発信、運用することができた。	山元中	
			A	計画通りに教職員健康診断を実施するとともに、年2回のストレスチェックを実施、健康管理に役立てることができた。	教育総務課	
		健康管理対策実施要領に基づく在校時間の把握と指導（勤怠システムの導入と活用）	A	勤務時間内の業務の効率化が図られ、概ね適正な勤務時間での業務を推進できている。	坂元小	
			B	勤務時間管理システムにより、勤務時間の把握と自己管理を進め、時間外勤務の縮減に努めた。	山下小	
			A	在校時間の適正な管理に努め、過大な職員には時間削減に向けた話し合いを実施した。	山一小	
			A	タイムカードにより、在校時間を整理して把握することができた。これにより、超過勤務時間が多い教職員へ業務改善の対応をすることができた。	山二小	
			A	在校時間記録の実績により、勤務時間の把握に努め、個別に職員に働きかけることができた。	山元中	
			A	出退勤管理システムの導入により長時間労働者を把握するとともに希望者に対し医師との面談機会を準備した。	教育総務課	
			労働安全衛生委員会の設置	A	学校安全衛生委員会という名称で設置。	坂元小
				A	労働安全衛生委員会を3回開催し、協議内容を全職員で共有し改善を図るよう努めた。	山下小

教職員の健康管理と多忙解消	健康診断事業や勤務時間の把握等を通して、教職員の健康管理、適正勤務について指導支援する。	労働安全衛生委員会の設置	A	問題点の改善に努めることができた。	山一小
			B	開催が不定期であるため、改善を要する。	山二小
			A	職員の状況によって管理職等で情報共有した。	山元中
		校務支援システム導入による効果的な校務運営	A	公簿及び成績処理等において効率化が図られた。起動しない時がある。	坂元小
			A	町内統一の校務支援システムを導入し、日誌、出席簿など重複していたデータ入力を連動させることで、業務縮減につなげることができた。	山下小
			A	効果的な活用を図り、業務量軽減に努めた。	山一小
			B	各種諸表簿の電子化が進んでいる。次年度は生徒指導記録簿等、対象を拡大していく。	山二小
			D	導入初年度であり、その効果と課題を検討しながらの運用となった。	山元中
			A	部活動方針の遵守による適切な活動時間、休息が確保され、負担が是正されている。	山元中
		「山元町立中学校に係る部活動の方針」の遵守や部活動指導員の配置等による教員の過度な負担の是正	A	各部年間指導計画を確認し、土日どちらかの休養を条件化することで過度な負担の是正の一助とした。	教育総務課

教職員の健康管理と多忙解消	行事や会議、業務等を見直し、多忙解消を図る。	行事や会議等の精選及び業務の効率化	A	会議の精選や時間短縮、資料のデジタル化等、積極的な効率化を図ることができた。	坂元小
			B	会議の開始・終了時刻の提示と、参加者を絞ることにより効率的に会議を進めた。欠席連絡フォームを導入し、欠席者の情報共有と対応の効率化を図った。	山下小
			A	コロナ過で開催実施を見送っていた緒行事や会議について、その在り方の再度検討後、再開や規模縮小や開催見送りとすることができた。	山一小
			A	コロナ禍にあり、行事は全体的に縮小傾向にあった。会議等の精選は十分行われている。	山二小
			B	行事が過多で精選が必要であると考え、効率化を目指し引き続き多忙解消に努める。	山元中

(4) 教育環境諸整備の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校からの 情報発信	開かれた魅力ある学校づくりを推進するため、積極的に情報を発信する。	学校だより、学校ホームページ等の充実と積極的な情報発信	A	定期的な学校だよりの配信及び、適時適切な学校メールの配信、ホームページの充実等を図ることができた。	坂元小
			A	学校だより、学年だより等の定期的な発行、ホームページのリニューアルにより、分かりやすい情報発信に努めた。	山下小
			A	ICT支援員の協力の下、学校HPの充実に努めた。また、定期的な更新に努め情報発信を行った。マチコミの利活用を推進した。	山一小

学校からの 情報発信	開かれた魅力ある学校づくりを推進するため、積極的に情報を発信する。	学校だより、学校ホームページ等の充実と積極的な情報発信	A	学校だよりを定期的に発行し、学校の様子等を保護者や地域に発信することができた。学校ホームページも随時更新するように改善する。	山二小
			B	ICT支援員の協力により、定期的に更新することができた。	山元中
		学校行事やフリー参観等の実施による積極的な学校公開	B	コロナ禍の制限下において、可能な範囲で公開できた。	坂元小
			A	学習参観や学校行事等を通して、積極的に教育活動を公開した。	山下小
			A	コロナ過の下の制限がある中、保護者や地域の方々に積極的に来校していただいた。	山一小
			A	コロナ禍であり、保護者や地域の方々の来校を制限することもあったが、動画を配信するなど、できる限りの公開に努めた。	山二小
			B	新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、4月の参観を中止にしたり、分散参観にしたりと制限を設けながら実施することができた。	山元中
学校施設の 計画的な改修	児童生徒の快適な学習環境を作るため、計画的に校舎等の整備改修を実施する。	老朽化した校舎の改修等計画的な整備改修	A	学校施設環境改善交付金を活用し、老朽化が著しく雨漏り等が深刻な状態にある山元町立山下第一小学校の校舎を改修し、児童生徒の快適な学習環境を整備した。	教育総務課
	学校環境整備事業（学校敷地内除草）を実施する。	シルバー人材センター（業務委託）による学校敷地内除草を年2回実施	A	各小・中学校の学校敷地内除草を年2回実施し、学校環境の維持改善を実施した。	

教材教具の充実	時代に即した学習教材等の充実を図る。	教科書採択に伴う指導書等の整備	A	今年度は特別支援学級の教科書採択の年であり、教師用教科書・指導書については学級増などの過不足に対応した。	教育総務課
		教材教具の更新及び学校図書等の充実	B	運動用具等については、新年度予算編成に併せ、各学校と調整を行い、整備に努めている。また、図書については、毎年クラス数に応じた予算を計上し、新刊購入費等に使用している。	
保護者の負担軽減	子育てしやすい環境整備を図るため、各種助成制度や補助金等の創設・拡充を検討し子育て世帯の負担軽減を図る。	入学児童生徒の就学援助（新入学学用品）の前倒し支給を含めた就学援助の円滑な実施	B	就学援助該当者については、給食費を口座振替しないことや事務支援室と共同で申請様式を簡素化するなど保護者の負担軽減につながるよう取り組めた。	教育総務課
		学校給食費の補助制度の検討・実施	B	保護者から補助金申請をもらい補助決定をする一連の流れにおいて、膨大な事務量と時間を要してしまうという課題が残った。	
廃校となる校舎等の活用	学校施設がもつ機能を最大限に生かした利活用を目指す。	機能を生かした効果的な利活用を図る。	N	企画財政課で旧坂元中学校活用を計画中。	教育総務課
		学校備品の効果的な活用を図る。	A	小学校及び中学校で活用済。令和5年度で再度残置物処分予定。	
学校事務共同実施の推進	共同実施の推進・充実により、教員の負担軽減、学校事務の効率化、学校運営支援を図る。	学校事務の共同実施に係る指導支援	A	今年度も共同実施における共通認識の共有や各学校の事務処理の同一を目的に運営され、各校取りまとめられた一律質問に回答するなど効率化が図られた。	教育総務課

学校事務共同実施の推進	共同実施の推進・充実に より、教員の負担軽減、学校 事務の効率化、学校運営支 援を図る。	各校における共同実施に関す る理解促進と協働体制の確立	A	共同による情報共有、情報交換、業務の効率化が 図られた。また、教職員へ本事業の推進の意義を 伝え、理解を促すことができた。	坂元小
			A	学校事務支援室が効率的に運営されており、情 報の共有化が図られたことで、事務負担の軽減 につながっている。	山下小
			A	共同実施の趣旨を理解し、学校事務の効率化、 負担軽減に努めることができた。	山一小
			A	互いの職務を点検し合うこと、情報を共有し合う ことにより、正確さの向上・時間の短縮化を図る ことができた。	山二小
			A	年3回支援室だよりを発行し、教職員への理解促 進を行った。また、グーグルを使用し情報共有を 行った。	山元中
学校給食の 運営	安全・安心な学校給食の提 供を目指す	施設・設備の計画的な整備・ 更新	B	給食室給気・排気ファン継手修繕、ガス回転釜修 繕、業務用冷凍庫修繕事業等をはじめとした施設 の適正な維持管理の実施。また、給食室パスス ルー冷蔵庫購入をはじめとする必要備品の整備を 実施した。	教育総務 課
		年間を通じた安定した給食の 実施	A	給食担当教員を中心に、用務員等の連携により、 円滑かつ安全な給食が実施できた。	坂元小
			A	衛生管理等を適切に行い、学校給食を提供する ことができた。	山下小

学校給食の 運営	安全・安心な学校給食の提 供を目指す	年間を通した安定した給食の 実施	B	年間給食数や牛乳数の適切な管理に努めること ができた。	山一小
			B	特別支援教育支援員や養護教諭を活用し、衛生面 に十分配慮して給食指導を行うことができた。	山二小
			A	給食調理施設設備に関する不具合等があったもの の、年間を通して安定して給食を実施することが できた。	山元中
			A	昨年度の山元町立学校給食運営協議会において承 認された今年度の運営計画に基づき、安心・安全 な給食を提供した。また、定期的に栄養士会を開 催し、現状を把握した。	教育総務 課

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向5 家庭・地域・学校の連携・協働の推進

(1) コミュニティ・スクールの導入と地域学校協働本部の連携

重点的事項7

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校運営等の自律的改善	学校と保護者・町民がともに知恵を出し合い、協働しながら学校づくりを進める。	学校運営協議会（コミュニティスクール）の設置と学校運営への反映	A	学校運営協議会の立ち上げ、組織運営の素地を確立し、学校運営へ反映できる体制を整備することができた。	坂元小
			A	学校運営協議会を設置し、各部会の活動や評価を学校運営に反映することができた。	山下小
			A	活動初年度に当たり、CS設置の意義や役割の確認ができた。また、部会ごとに具体的な活動計画を立て実行に移すことができた。	山一小
			A	学校経営方針の説明や学習活動の公開によって学校教育への理解を深めるとともに、地域学校協働活動の計画立案を行うことができた。	山二小
			N	未配置ではあるが、令和5年度の設置に向け、教育委員会や学校評議委員会等との意見調整を図りながら準備を進めることができた。	山元中
			A	山下小への設置に引き続き小学校3校に学校運営協議会を設置した。委員向けに研修会を開催するとともに設置準備中の山元中も含めて町内のコミュニティ・スクール代表者による連携会議を開催し、連携を深めることができた。	教育総務課

学校運営等の自律的改善	学校と保護者・町民がともに知恵を出し合い、協働しながら学校づくりを進める。	学校評価や学校関係者評価の充実	A	学校運営協議会による学校運営への評価についての体制が整備された。	坂元小
			B	学校評価や学校関係者評価、保護者、児童アンケートを実施し、教育活動の改善を図ることができた。	山下小
			A	地域や保護者の方々から貴重な意見を頂き、その意見を活動に活かすことができた。	山一小
			A	学校評価を行い、その結果を保護者や学校運営協議会に公表するとともに、次年度の教育計画に反映させることができた。	山二小
			A	学校評価を数値化し、評価、検証を行うと共に、結果の公表を行った。	山元中
			A	学校運営協議会が小学校全校で設置されたことにより、保護者や地域住民の学校運営への関心が高まり、学校関係者評価の改善にもつながった。	教育総務課
	地域人材を活用し、教育活動の充実を図る。	専門的知識や技能を有する地域人材の教育活動への積極的な活用	A	総合的な学習の時間を中心に地域の産業や美化活動に携わる方、防災教育に携わる方、神楽等伝統文化の伝承に携わる方の活用ができた。	坂元小
			A	鼓笛隊指導の外部講師や読み聞かせボランティアの活用を図り、学習効果を高めた。	山下小
			A	体験活動に置いて、地域の方々からたくさんの支援を頂くことができた。	山一小
			A	裁縫指導の補助、校庭の整地、稲・サツマイモ栽培の補助等、様々な専門的知識や技能を有する地域人材の活用ができた。	山二小

学校運営等の自律的改善	地域人材を活用し、教育活動の充実を図る。	専門的知識や技能を有する地域人材の教育活動への積極的な活用	A	コロナ禍で制約がある中で、町の生涯学習課と連携して「職業人に聞く会」「夢志の教室」等を実施することができた。	山元中
地域学校協働本部の設置・運営と地域学校協働活動の推進	地域学校協働本部を設置し、地域学校協働活動を推進することにより、地域と一体となった協働教育の充実を図る。	地域学校協働本部の設置に向けた要綱の作成、人材の確保、本部の組織化と運営	B	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域学校協働本部の打合せを各学校で行うことはしなかった。学校から要望を吸い上げるよう連絡を取り合う場面を意図的に増やしたが、活用が難しい状況が続いた。	生涯学習課
		地域人材を活用した学校教育活動の支援	A	地域人材を積極的に活用し支援していただいた。	坂元小
			B	生活科での町探検や、総合的な学習の時間での地域の産業、郷土の開発についての学習、防災教育などに取り組んだ。	山下小
			C	地域学校協働本部との連携が課題となった。	山一小
			A	行政区長、同窓会会長、公園管理会前会長等、地域各団体との協力体制を構築できた。	山二小
			A	「2年生いのちの教室」や「校内総合防災訓練」等で、地域人材を活用した。	山元中
放課後子ども教室などの活動を通じ、児童生徒の人間形成を図る。	放課後子ども教室活動の充実	A	コロナ禍の中、安心して活動できるよう工夫を行い、スタッフの理解や協力のもとに、放課後子ども教室（はまっこキッズ19回、みやまっこクラブ21回）を開催した。子どもたちが興味を持てる体験的な活動を計画し、高い出席率を得た。	生涯学習課	

(2) 小小連携、幼保小連携、小中連携の強化

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学力向上に係る学校間の連携	各校の学力調査分析と活用（学力向上プラン）を町内全校で共有し、指導に生かす。	学力調査の分析と活用の作成と共有（研究主任者会）	B	学力調査結果を比較するだけでなく、課題を捉え、指導に生かすことを目指して取り組むことができた。	坂元小
			B	研究主任が中心となり、調査結果の分析と対応策を全職員で検討し、指導に生かした。	山下小
			A	研究主任者会を中心に、学力向上を目標とした町内連携が図れた。	山一小
			A	自校の学力調査の結果、町内各校の学力調査の結果について、しっかり情報共有を図ることができた。	山二小
			A	小中研究主任者会などを通じて共有を図ることができた。	山元中
	授業参観や情報交換など、学力向上に向け小・中学校間の連携促進を図る。	指導主事訪問時の相互参観、小・中情報交換会等の実施	B	指導主事訪問の際は各校への案内し、また、校内の事情を勘案しながら他校への派遣に努めた。	坂元小
			A	指導主事訪問時に相互参観を行った。また、各担当者会等で情報交換を積極的に行い、連携を図ることができた。	山下小
			A	4小1中の授業相互参観がよく図れた。	山一小

学力向上に係る学校間の連携	授業参観や情報交換など、学力向上に向け小・中学校間の連携促進を図る。	指導主事訪問時の相互参観、小・中情報交換会等の実施	A	指導主事学校訪問の相互参観、連携サポート事業に係る研修会への参加について、計画的に行うことができた。	山二小
			A	指導主事学校訪問を活用して、よりよい授業づくりに努めることができた。	山元中
小小、小中連携の強化	小・中学校間のより一層の連携強化を図ることで本町児童生徒の課題改善を図る。	児童・生徒の交流活動の充実	C	一度しか機会がなかった。中学進学を見据えた交流が必要である。	坂元小
			B	オンラインでの交流を行い、総合的な学習の時間の発表会を相互参観した。	山下小
			B	児童生徒の交流活動は、まだまだ改善推進の余地がある。	山一小
			A	6年児童の中学校訪問、山下第一小学校との交流（4年児童）を行うことができた。	山二小
			N	該当なし	山元中
		教職員の相互理解や情報共有の推進	C	研修会等、交流の機会があったが、コロナ禍で十分なものとは言えない。	坂元小
			A	各担当者会等で情報交換を積極的に行い、連携を図ることができた。	山下小
			A	4小1中の教職員間での情報交換が推進できた。	山一小
			A	教務主任者会、研究主任者会等における情報共有、相互授業参観により、他校の取組への理解を深めることができた。	山二小
			A	市町村教育委員会との連携サポート事業を活用することができた。	山元中

幼保小の連携・交流の促進	幼稚園・保育所から小学校への円滑な接続が図れるよう、小学校就学前の幼児の情報を共有する。	家庭教育学級及び幼児学級の開催、就学予定児童に関する情報交換会の開催【H29～】	A	就学前の各取組を通して、円滑な小学校生活のスタートへとつながっている。	坂元小
			A	幼児学級や情報交換会に基づき、入学前の幼児についての実態を把握することができた。	山下小
			A	就学前児童の保護者に対して、小学校就学に当たっての心構え（準備）等を話すことができたのがよかった。	山一小
			A	就学予定児童に関する情報交換会を開催し、ここで得た個々の情報を職員全体で共有することができた。	山二小
			A	就学予定の保護者を対象に家庭教育学級を行うことで、子どもの成長に対する理解をより深めることにつながった。 就学予定の幼児を対象に幼児学級を行うことで、幼児の特徴や行動面について把握することにつながった。	生涯学習課
			A	円滑な接続が図れるよう、就学予定児童に関する情報交換会を開催し、就学前の幼児の情報を共有することができた。	教育総務課
	幼保小相互参観、連絡会の開催と接続期の教育課程の充実		A	幼・保・小相互の情報交換等により、円滑な小学校生活のスタートへとつながっている。	坂元小
			A	連絡会の開催により情報共有が図られ、入学後の指導に役立てることができた。	山下小
			A	幼保小相互の学習参観及び情報交換は、子どもの指導にとって有効であった。	山一小
			A	幼保小相互参観、配慮の必要な入学予定児の保育参観等、円滑な小学校入学のため、連携することができた。	山二小

(3) 子供たちの体験活動の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
地域を知り、地域と交流する体験活動の推進	学校教育での体験活動の実施により豊かな感性を育む。	体験活動の教育課程への位置づけ	A	学年の発達段階・学習内容に応じて、地域学習及び体験活動を設定している。	坂元小
			A	各教科の指導計画および行事計画に体験活動を位置付け、実施した。	山下小
			A	学校行事を、体験的な学びを得ることができる場と位置付け、取り組むことができた。	山一小
			B	総合的な学習の時間を中心に、計画的に指導することができた。	山二小
			N	該当なし	山元中
	子どもたちの学習・社会活動を充実させるため、地域の教育資源を活用しながら、次世代を担う地域リーダーの育成、地域コミュニティとの連携強化、世代間交流の推進を図る。	地域の教育資源（ヒト・モノ）を活用した学校と地域との協働による児童生徒への指導等の取組の実施	A	学年の発達段階・学習内容に応じて、地域学習及び伝統文化に触れる体験活動等を設定し、地域の良さに触れ、地域に生きる人材としての素地を養うことができている。	坂元小
			B	生活科での町探検や、総合的な学習の時間での地域の産業、郷土の開発についての学習、防災教育などに取り組んだ。	山下小
			A	体験活動（花壇植え替え、全校焼き芋）等で、地域との方々と協働で取り組むことができた。	山一小

地域を知り、地域と交流する体験活動の推進	子どもたちの学習・社会活動を充実させるため、地域の教育資源を活用しながら、次世代を担う地域リーダーの育成、地域コミュニティとの連携強化、世代間交流の推進を図る。	地域の教育資源（ヒト・モノ）を活用した学校と地域との協働による児童生徒への指導等の取組の実施	A	駐在所や消防署、スーパーマーケット等、地域にある様々な施設の協力を得て、児童の地域社会への理解を深めることができた。また、米作りの講師、見守り隊、読み聞かせボランティア、公園管理会等、様々な地域の方々と交流する機会を設けることができた。	山二小
			N	該当なし	山元中
			A	ジュニアリーダーの定例会や研修などを行い、地域活動に関わる中高生の人材育成を行った。引き続き活躍の場を提供し支援していく。 地域人材の専門性を生かし、体験的な活動や実際の現場の方の講話等、豊かな活動を行うことが出来た。	生涯学習課

(4) 家庭教育支援の充実

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
親の「学び」と「子育て」の支援	子育てに関するスキルの向上を図るため、子育て期間中の親と、支援を行う関係諸団体等に対し、有益な情報や学習機会を提供する。	子育てサポーター等子育てを支援する担い手の養成支援	B	子育てサポーターリーダー養成講座に3名、子育てサポーター養成講座に2名が参加して研鑽を積んだ。他のメンバーについても可能な講習に参加した。より良い活動にするため、若年層の人々を勧誘しながら研修を促していく。	生涯学習課
		子育てサークルの活動支援	B	自主的な活動の展開という意識を念頭に置き、活動支援にあたってきた。メンバー同士や幼児のより良い交流の場になるよう引き続き支援していく。	生涯学習課

親の「学び」と「子育て」の支援	子育てに関するスキルの向上を図るため、子育て期間中の親と、支援を行う関係諸団体等に対し、有益な情報や学習機会を提供する。	家庭教育支援チームの活動支援	A	定例会、研修会の実施補助などを行い、新型コロナウイルス感染症に配慮しながら環境整備や各機関との連絡調整などを行い、一定の工夫をしながら活動を促すことができた。	生涯学習課
家庭教育推進事業	協働教育の一環として、家庭教育学級や家庭教育関連事業の充実を図るとともに、親子のふれあいの機会を拡充し、家庭と地域、学校、行政が一体となって家庭教育の活性化に努める。	家庭教育学級・幼児学級の開催	A	町との連携の元、家庭教育学級、幼児学級を開催することで、家庭教育への理解と協力を促す機会となっている。	坂元小
			A	家庭教育学級、幼児学級を開催し、入学に際しての不安の解消と、家庭教育の充実に寄与することができた。	山下小
			A	未就学児をもつ保護者から、学校教育への理解を得るのに有効であった。	山一小
			B	PTA研修部がSSWを講師とした子育てに関する研修会を企画したり、学年懇談会で家庭教育に関する情報を交換したりするなど、家庭教育について考える場を設定することができた。	山二小
			N	該当なし	山元中
			N	家庭教育学級において、家庭教育支援チーム「つばめ」がファシリテーターとなって、親のみちしるべを実施する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から中止とした。	生涯学習課

家庭教育推進事業	協働教育の一環として、家庭教育学級や家庭教育関連事業の充実を図るとともに、親子のふれあいの機会を拡充し、家庭と地域、学校、行政が一体となって家庭教育の活性化に努める。	家庭教育講座の開催	A	月1回程度、様々なテーマで「ちびっこひろばきらり☆」を開催し、家庭教育の充実を図ることができた。	生涯学習課
		親子ふれあい事業の開催	N	親子料理教室を実施予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から事業を中止とした。	生涯学習課

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向6 伝統・文化の尊重と文化財の保護と活用

(1) 伝統・文化の尊重と理解

重点的事項8

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
歴史や伝 統・文化の 尊重と理解	歴史や伝統文化の理解を深めるため、普及啓発活動を通じて共有を図り、ふるさとを愛する心を醸成する。	歴史民俗資料館を活用した学習の展開と、展示内容の充実や学習講座の提供等の支援体制の強化	A	歴史民俗資料館は、3学年において昔の道具を調べる学習で活用している。身近に貴重な資料があることは好ましいことである。石器等について6学年でも活用できればと考える。	坂元小
			N	復旧工事のため実施せず	山下小
			A	3年生の社会科学習において、歴史民俗資料館の展示資料は、学びを深めさせる上で効果的であった。	山一小
			N	R4は活用していない。	山二小
			A	前年度から引き続き、歴史授業の一環として、町内小学生等を対象とした校外学習の受け入れ、山元中学校への歴史災害学習の出前授業等を実施した。	生涯学習課
		公式ウェブサイトや広報などによる町の歴史などの情報発信の推進	A	歴史民俗資料館、イメージキャラクターせんこくんの情報、茶室の歴史に関するチラシを町内関連施設に設置・配付し、情報発信に努めた。	生涯学習課

歴史や伝統・文化の尊重と理解	歴史や伝統文化の理解を深めるため、普及啓発活動を通じて共有を図り、ふるさとを愛する心を醸成する。	神楽や太鼓など、地域に受け継がれている無形文化財等の体験学習の実施と保存団体の支援の推進	A	坂元・中浜の神楽保存会の方の指導により伝統文化の指導をいただき、お祭りなどで披露している。各保存会との良好な関係が築かれており、体験活動の充実が図られている。	坂元小
			N	活用なし	山下小
			N	本校には神楽や太鼓等の無形文化財はない。	山一小
			A	花釜音頭保存会の方々を講師として数回招き、4年児童が花釜音頭や笠浜甚句を学び、学習発表会で披露した。	山二小
			N	該当なし	山元中
			B	無形文化財保存団体への補助金交付を行った。	生涯学習課

(2) 文化財の保護と活用

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
文化財の保護と活用	各種文化財の適切な保護・保存しながら活用し、後世に継承・発展させていこうという意欲や意識を育てる。	有形・無形文化財や所蔵している資料についての適切な保護・保存、文化財指定登録の推進	A	町指定文化財茶室等の修復のため、その実施設計に着手した。 指定文化財の適正な評価のため、町指定文化財茶室、葦首城大手門、板倉について、理化学的な年代測定を実施した。	生涯学習課
		文化財の公開・講座などの普及事業の実施、継承・発展していく意識の育成	A	合戦原遺跡出土装飾付大刀の効果的な活用・公開のため、復元品の制作を行うとともに、その情報発信に努めた。	生涯学習課

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向7 生涯にわたる学習・文化芸術・スポーツ活動の推進

(1) 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進	主体的な活動を促す環境づくりや、学んだ成果を生かした活躍ができるような支援	町広報誌やホームページ等を活用した適切な情報提供	A	生涯学習・文化芸術事業の内容・募集等について、生涯学習だよりや広報やまもとの媒体を積極的に活用し、その周知徹底に努めた。	生涯学習課
		図書に慣れ親しむことのできる環境整備	B	絵本のキャラクターや季節ごとの行事に関連する掲示物を作成、掲示することにより、図書コーナーを利用しやすい雰囲気づくりに努めた。 図書室事業の企画・運営に携わる図書司書1名を配置して図書室の環境整備に努めるとともに、新刊図書211冊を購入して蔵書の充実を図ったほか、蔵書の点検や図書室事業に係る企画（子どもの本展示会、リサイクル市、乳幼児健診時の出張図書室）などを実施した。 中央公民館では宮城県図書館等の事業を参考に子どもが本と出会うきっかけとなる「読み聞かせ」の講座を開催しているが、定期的に活動を行うボランティア団体の育成などが課題となっている。	

地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進	主体的な活動を促す環境づくりや、学んだ成果を生かした活躍ができるような支援	【第6次山元町総合計画・目標指標】 町民一人当たりの図書の貸出数 中間値(2023年)0.47冊、 目標値(2028年)0.57冊、 を達成するための取組の推進	B	定期利用団体への図書コーナーのPRや、図書購入のリクエストカードの設置など貸出数の増加に努めた。 中央公民館及び坂元公民館図書室における町民1人当たりの図書の貸出数については、増加傾向にあり、令和4年度の実績値(0.96冊)について、次年度の目標値となる中間値(0.47冊)以上の結果が得られていることから、着実な推進が図られている。	生涯学習課
		国や県の事業(巡回小劇場等)の積極的な活用による児童生徒が文化芸術に触れる機会の充実	N	コロナ禍であること、体育館が使用できないこと等から、申請をしていない。	坂元小
	A		巡回小劇場「三味線いろいろ」を実施し、児童が文化芸術に触れる機会を設けた。	山下小	
	A		普段なかなか触れる機会のない文化芸術に触れさせることができ良かった。	山一小	
	N		実施せず	山二小	
	N		該当なし	山元中	
	A	山下小学校を会場に、宮城県巡回小劇場による音楽公演「しゃみせんいろいろ」を行い、日本の伝統芸能を学び親しむ機会となった。	生涯学習課		

地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進	主体的な活動を促す環境づくりや、学んだ成果を生かした活躍ができるような支援	「町民文化祭」「公民館まつり」など、あらゆる人々が学んだことをもとに地域活動で活躍する機会の拡充	B	3年ぶりに町民文化祭を開催し、文化協会に加盟する団体が日頃の活動の成果を発表することができた。 「坂元公民館まつり」は、新型コロナウイルスの影響により中止とした。	生涯学習課
--------------------	---------------------------------------	--	---	--	-------

(2) 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実

重点的事項9

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実	スポーツに親しむ雰囲気醸成と、活動の充実	スポーツの良さを享受するための主体的な行動の促進、スポーツを通じた人づくり・地域づくりの推進	A	スポーツ推進委員の出前教室により、スポーツを体験したい団体等へ、各種スポーツの支援を行った。	生涯学習課
		要望に応じたスポーツイベントの実施や活動団体の支援	A	スポーツ推進委員の出前教室により、スポーツを体験したい団体等へ、各種スポーツの支援を行った。	

生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実	社会教育施設の施設の修繕及び器具の更新の計画的な実施	社会教育施設の復旧及び備品等の整備	B	<p>町民体育館については、令和3年2月13日に発生した福島県沖を震源とする地震の災害復旧工事に合わせて個別計画に基づく長寿命化改修工事と耐震補強工事を実施したが、令和4年度中に工事が完了しなかったことから、一部管理業務及び工事については工期を延長して翌年度に実施することとした。</p> <p>なお、工事期間中の代替施設については旧坂元中学校体育館を整備して貸出を行うことにより、町民のスポーツ活動の振興に支障が生じないように努めた。</p> <p>町民体育館の工事完了に合わせて配置を予定していた施設備品及びスポーツ備品の購入については工事完了後（翌年度）の購入を予定している。</p>	生涯学習課
	施設利用の促進 (※社会教育施設を含む)	<p>【第6次山元町総合計画・目標指標】</p> <p>町民一人当たり社会教育・社会体育施設の利用回数 中間値(2023年)16.2回、 目標値(2028年)17.5回、 を達成するための取組の推進</p>	B	<p>2022年については、10.5回だったが、2023年については、11.4回となり、前年度と比較し増加した。これは、中央公民館大ホールや、ふるさと伝承館において、地震被災に伴う復旧工事が完了し貸し出しを再開したことや、全面休館となっている町民体育館の代替施設として、旧坂元中学校を利用開始したことが主な要因である。</p>	生涯学習課

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向 8 防災教育をととした命を守る意識の高揚

(1) 防災教育の推進・充実

重点的事項 10

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
大震災の教訓を生かした防災教育の推進	災害についての正しい理解、減災につながる知識の習得等を図る。	計画に基づいた総合的な学習、各教科等での防災教育の位置付け	A	学校安全主幹教諭の防災教育計画の基、総合的な学習の時間及び各教科に防災教育が位置付け、実施され児童の知識・理解につながった。	坂元小
			A	学校防災マニュアルを見直し、整備するとともに、総合的な学習の時間に年間10時間の防災教育を位置付け、実施した。	山下小
			A	震災遺構旧中浜小学校や防災拠点のひだまりホールの見学を通し防災減災について学んだ。	山一小
			B	避難訓練、防災ショート訓練、町総合防災訓練を計画的に実施し、事前・事後指導も丁寧に行うことができた。	山二小
			A	各教育活動において、計画的に位置付けられており、適切に実施されている。	山元中
	町施設を活用した防災教育を推進し、各種事業を通して防災に対する意識高揚を図る。	町防災拠点施設を活用した防災教育の展開と伝承活動の支援	A	5学年の震災遺構中浜小学校、6学年のひだまりホールの見学などを行い、防災意識と震災の伝承について学ぶことができた。	坂元小
			A	ひだまりホール、震災遺構中浜小学校の見学を行い、防災教育の充実を図った。	山下小

大震災の教訓を生かした防災教育の推進	町施設を活用した防災教育を推進し、各種事業を通して防災に対する意識高揚を図る。	町防災拠点施設を活用した防災教育の展開と伝承活動の支援	A	ひだまりホールの設備等についての理解を通し、防災への意識を高めることができた。	山一小
			A	山元町震災遺構 中浜小学校や山元町防災拠点・山元町地域交流センターの見学、防潮林に関する学習を上学年が実施した。	山二小
			B	各施設を活用した防災教育の推進は図られている。伝承活動を今後どうしていくのか検討していく余地はある。	山元中
			A	山元支援学校などの施設見学を随時受付、防災拠点施設としての役割を周知することに努めた。町内小・中学校の防災教育プログラムに、震災遺構の見学・研修を取り入れ、防災・減災教育に活用されている。	生涯学習課
	防災キャンプの実施による防災の意識の育成	N	新型コロナウイルスの影響により感染拡大を防止するため中止とした。 備蓄倉庫等、施設内の案内やマンホールトイレ設置体験等を防災キャンプで実施予定だったが中止とした。	生涯学習課	

(2) 地域の自主防災訓練や町総合防災訓練への参加

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
関係機関等 との連携	東日本大震災の被災経験を 生かすため、地域・関係機 関等との連携を密にし、地 域・町を挙げて防災教育の 推進・充実を図る。	学校及び幼稚園・保育所・町 総務課危機管理班等による防 災担当者会の開催とその充実	A	定期的な担当者会の開催により、防災教育の取組 状況を情報交換し共有したり、知識を深めたりす ることができた。	坂元小
			A	防災担当者会での話合いの内容が、防災主任を通 して全職員に共有されるとともに、マニュアルの 見直し等に反映されている。	山下小
			A	関係機関の防災担当者との情報交換を通して、本 校防災マニュアルの見直しや、防災意識の高揚に 繋げることができた。	山一小
			B	町総合防災訓練（シェイクアウト訓練）について など、防災担当者会で決まったことや話題となっ たことを職員会議等で共通理解を図ることができ た。	山二小
			A	コロナ禍による制約や地域の実態に応じた取組が 求められる中、できる範囲で防災教育が行われ るように定期的に担当者会を実施し意見交換を行 った。	山元中
			A	関係機関等の担当会を開催し、防災教育の推進、 充実を図ることができた。	生涯学習 課

関係機関等との連携	東日本大震災の被災経験を生かすため、地域・関係機関等との連携を密にし、地域・町を挙げて防災教育の推進・充実を図る。	学校及び幼稚園・保育所・町総務課危機管理班等による防災担当者の開催とその充実	A	防災担当者会に出席し、各校での危機管理マニュアルの見直し指示・指導により見直し完了及び防災訓練等の協議を進め、連携を図ることができた。	教育総務課
児童生徒の防災訓練への参加	町総合防災訓練並びに地域で行われる自主防災訓練に積極的に参加することで、災害発生時の対応力を身に付けさせる。	町総合防災訓練（居住地域ごとの避難訓練及び研修）へ主体的に参加することによる防災意識の向上	A	事前の連絡・周知を徹底し、円滑な児童の訓練への参加を促すと共に、災害時の対応について学ぶ機会とすることができた。	坂元小
			B	町総合防災訓練の意義を伝え、主体的な参加を呼び掛けた。	山下小
			B	令和4年度は、学校として町の総合防災訓練への参加はなかった。	山一小
			B	シェイクアウト訓練の実施方法について、町からいただいたワークシートを活用して指導することができた。	山二小
			B	主体的に参加するための事前指導や情報発信は行ったものの、訓練への参加率が高かったとは言い難い。	山元中
			N	町総合防災訓練では、新型コロナウイルス感染症の影響により、シェイクアウト訓練を中心とした訓練を実施しており、児童、生徒も自宅で訓練に参加したが、学校を登校日とした参加ではないことから、評価不能とします。	教育総務課

(3) 震災遺構・防災拠点の利活用

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和4年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
旧中浜小学校震災遺構 保存活用事業	震災により被災した旧中浜小学校を「震災遺構」として維持・活用を図る。	震災遺構としての整備・維持、様々な形態での学習機会の提供	A	町内小・中学校の見学・研修のほか、県内外の中学校・高等学校の教育旅行、自治体や企業・団体等の防災・研修旅行にも活用されている。	生涯学習課
	防災拠点の設備を見学、体験する活動を通して災害発生時に円滑な避難所運営につなげられるようにする。	防災拠点の設備の周知、設営体験活動の実施	A	小学生を対象とした施設見学や、マンホールトイレの設置体験活動等を実施した。 小・中学生を対象とし、防災に関する知識と実践力の定着を目的に実施している「防災キャンプ」で防災拠点施設の体験活動を実施した。	生涯学習課

IV 学識経験者の意見書

はじめに

令和4年度は「第2期山元町教育振興基本計画」（令和4～8年度）の実施初年度に当たり、家庭及び地域の教育力を生かし、心豊かでたくましい人間形成を図るとともに、町民の生涯にわたる学習の充実を目指して、様々な施策が具体的に展開・推進された1年であったように感じます。

収束が見えないコロナ禍の生活の中にあって、「英知」・「共生」・「健康」をキーワードに、令和4年度も山元町教育委員会が地域住民や保護者からの信頼の下に、各小・中学校及び関係諸機関・団体と連携してその教育行政を着実に推進している様子が、「山元町教育委員会に関する点検評価報告書」から強くうかがえました。

今回、この点検評価報告書に基づき、山元町教育委員会の令和4年度事業について意見を申し述べる機会を頂戴しましたので、以下に気付いた点を記させていただきます。

なお、意見の中に引用する「点検評価」は、山元町教育委員会及び各各小・中学校における点検評価であり、その「達成度」は

A：90%以上、B：70%以上、C：40%以上、D：40%未満、N：評価不能
--

と設定されています。

1 教育委員会の活動について

定例会の付議事件等からは山元町における生涯学習社会の実現を志向し、「第2期山元町教育振興基本計画」の基本施策の推進を目指して審議がなされ、臨時会についても適時に開催されたものと推察します。

2回開催された総合教育会議についても、小学校再編の進め方、部活動の地域移行という山元町の学校教育の喫緊の課題とも言える内容が議題として取り上げられていました。

実情の把握と必要な指導助言を行うためになされている教育委員の教育機関訪問は、コロナ禍における施設運営や学校経営について課題を共有し、その対応を考える上で有効であったと考えます。

2 教育関係経費決算の状況について

教育費は前年度比45.5%の増加であり、学校教育施設及び社会教育施設の整備や改修がなされたことにより、町内の学びの環境がさらに充実したものと考えます。

なお、「幼稚園費」も35.4%の増加となっていますが、その理由についても記されると教育行政の推進に対する町民の理解が一層得られるものと考えます。

3 学校教育の充実について

(1) 小・中学校児童生徒数等について

児童生徒数は前年度より3名の減少でしたが、小学校は35名の増加でした。『子育てするなら山元町!』をスローガンに、子育てしやすいまちづくりを進めてきたことが一つの要因であると考えます。懸念される点としては、中学校の生徒数が38名減少し、減少率が約15%になっている点です。個々の家庭の事情ではありますが、転出事由の傾向を整理しておくことも必要だと考えます。

「山元町教育要覧」によれば、令和4年度の1学級当たりの児童生徒数は、小学校が13.9名、中学校が25.7名でした。個に応じた指導、学習の個性化などを行いやすい適正人数と思われるので、「みのりプロジェクト」に代表される「第2期山元町教育振興基本計画」の基本方向と基本施策に沿って、一人一人の児童生徒にきめ細かく目が行き届く取組が展開されることを

期待します。

(2) 就学援助事業について

経済面での「教育格差」の解消につながる援助・支援事業が手厚く行われています。援助対象人数が、例えば「要保護・準要保護就学支援事業」においては小学校10.8%、中学校12.8%という割合になっており、令和3年度から増加しています。本事業の成果を検証する観点から、その経年変化や他市町村との比較データなども記載することが必要かと考えます。

「特別支援教育就学奨励事業」と「被災児童就学奨励事業」もその趣旨に沿って実施されていると考えます。

(3) 学校給食費補助事業について

多子世帯の経済的負担を軽減し、子育て支援を推進するという事業であり、高く評価できます。子育て世代の山元町への移住増加などにも結び付く事業であると考えます。

令和5年度は、宮城県内で「学校給食費無償化」を条件付きで行っているのが山元町を含めて4市町、完全無償化になっているのは10市町村となっています。財政面の課題はありますが、人口減少対策として、条件の緩和や完全無償化も今後の検討課題になるものと考えます。

(4) 学校教育充実事業（みのりプロジェクト）について ～基本方向4－（2）との関連～

基本方向4「(2)『みのりプロジェクト』(学校教育充実事業)の推進 重点的事項⑥」に関連する点検評価はほとんどの項目が「A」評価でした。

推進会議で山元町の教育課題が時宜に応じて協議されていること、知育・徳育・体育の各部会が効果的に機能して各校の連携、課題の共有がなされていること、各校の校長先生方のリーダーシップが教職員の皆様の実践、学校・家庭・地域が一体となった取組を後押ししていることがうかがえます。

大学との連携も仙台大学・尚絅学院大学に加えて、長野大学と協力した活動も試みられていました。今後さらに大学教員の専門性や知見を校内研修の活性化に生かすこと、学生ボランティアを導入・活用することなども検討していただきたいと考えます。

(5) 山元町いじめ問題対策連絡協議会について ～基本方向1－（3）との関連～

連絡協議会が適切に運営され、機能していることがうかがえます。令和4年度のいじめ認知件数は前年度より5件減の12件になっていますが、継続指導中の3件が解消されることを望みます。特に児童生徒数が少なく、単学級などの場合には児童生徒の人間関係は固定されがちですので、いじめの未然防止・早期発見のための指導上の配慮と工夫、保護者や地域への啓発が一層求められます。

また、宮城県内においても深刻ないじめ事案が発生していることや、インターネットやSNSなどによるいじめも増加していることから、山元町教育委員会及び各小・中学校の「いじめ防止対策基本方針」の不断の見直しが必要であると考えます。

なお、基本方向1「(3)いじめ・不登校への対応 重点的事項②」と関連する点検評価はほとんどの項目が「A」もしくは「B」評価でした。各小・中学校において、児童生徒が安心して学校生活に臨むことができるように、教職員の日常の観察に加え、アンケートを定期的実施して児童生徒の人間関係の把握を適切に行い、必要な対応を取っていることがうかがえます。

いじめなどの問題行動、不登校などについては、教育相談、関係機関との連携、SSWやSCの活用なども行いながら、該当児童生徒及び家庭に対して積極的に働きかけるという各小・中学

校の地道な取組もうかがえます。

なお、2022年12月に文部科学省より「生徒指導提要（改訂版）」が全国の自治体に通知されました。学校や生徒指導を取り巻く環境が大きく変化するとともに、生徒指導上の課題がより一層深刻化している状況が改訂の背景にあります。各小・中学校においては、児童生徒を取り巻く環境の変化に対する理解、これからの生徒指導や児童生徒理解の基本的な考え方や取組の方向性の再整理などを目的とした研修を通し、教職員の指導力の向上を一層図ることを期待します。

また、【その他の評価指標】「自分にはよいところがあると思う」については、小学生が72.9%、中学生が77.8%と前年度より低下しています。低下の要因としては、人とのかかわりが制限されるコロナ禍の影響も大きいと考えます。そうした中であっても、多様性を認め合える集団づくり、自分の居場所がある集団づくりなどを今後も進め、児童生徒の自己肯定感や自己有用感がさらに高まるような指導を期待します。

（6）子どもの心のケアハウス運営事業について ～基本方向1－（3）との関連～

年度内に237日開所して12名の児童生徒を受け入れていること、相談件数が243件に上っていることなどから、各小・中学校及び保護者とケアハウスの連携が十分になされ、機能していることがうかがえます。

通所者が前年度は中学生4名であったのに対して、令和4年度は小学生7名、中学生5名の計12名となっています。各小・中学校、家庭、地域、各関係機関との一層の連携、情報と認識の共有を重視することが求められます。

名取市の心のケアハウスは開所以来、山元町教育委員会が連携協定を締結している尚絅学院大学の学生がボランティアとしてかかわり、専任の担当職員の指導の下に活動しています。白石市の心のケアハウスでの学生ボランティアの活動も2年目に入りました。山元町の心のケアハウスにおいても、必要に応じて学生ボランティアの導入を検討してもよいかと考えます。

なお、基本方向1「（3）いじめ・不登校への対応 重点的事項②」と関連する点検評価はほとんどの項目が「A」もしくは「B」評価でした。各小・中学校において、児童生徒が「行きたくなる学校づくり」に向けて、児童生徒一人一人に目を届け、「チーム学校」として取組を行っていることがうかがえます。

また、【その他の評価指標】「学校には行くのは楽しい」については、小学生が71.4%、中学生が87.5%と前年度よりはやや低下しましたが、高い割合です。「楽しい」と感じられない場合の該当児童生徒への支援・声掛けを丁寧に行い、学校生活への不適應のリスクを軽減することに力を注いでいただきたいと考えます。

（7）学力調査実施事業について ～基本方向2－（1）との関連～

調査結果を受けた授業改善、児童生徒の学び方の指導、評価の工夫・改善などに積極的に取り組まれたことと推察します。校内研究等において、育成すべき資質能力を踏まえながら、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業、「分かる」授業に主眼を置き、児童生徒の学力向上が一層図られることを期待します。

（8）子ども見守り隊活動支援事業について

不審者の出没、登下校時の悲惨な交通事故、自然災害などが各地で起きている状況の中で、児童の安全確保に地域と一体となって取り組むことは、今後も重視されるべきことです。見守り隊の活動と共に、家庭や学校においても児童に対して生活安全、交通安全、災害安全について繰り返し指導することが今後も求められると考えます。

(9) 特別支援教育支援員・スクールサポートスタッフ配置について

～基本方向2－(5)との関連～

点検評価の該当する項目のほとんどが、「A」評価でした。

特別支援教育支援員が全校に配置され、校長先生方のリーダーシップの下に特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制が確立されていることがうかがえます。

スクールサポートスタッフも全校に配置され、目的に即した取組が行われていることがうかがえます。「チームとしての学校」の理念に基づく学校経営、教職員の働き方改革が求められる中、今後もスクールサポートスタッフに加え、学習指導支援員や部活動指導員などの配置と活用を期待します。

(10) 奨学生緊急支援金給付事業について

引き続き、支援が必要なケースについて適宜対応がなされることを期待します。

(11) 主な施設設備等の状況について

①小・中学校校務支援システム導入事業 ～基本方向4－(3)との関連～

教職員の業務負担軽減が喫緊の課題である中で、校務支援システムの導入は大変意義のある事業であると言えます。教職員の業務の質的転換を図ることにもなり、児童生徒にとって真に必要な総合的な指導をより充実させる状況が生まれるものと考えます。

②小中学校ICT支援員配置事業 ～基本方向2－(3)との関連～

点検評価の該当する項目のほとんどが、「A」評価でした。

ICT支援員と連携し、各小・中学校においては「分かる授業」を目指してICTの活用が積極的になされています。また、教職員のICT活用能力の向上を目指す研修会でもICT支援員の活用がなされ、効果を上げていることがうかがえます。

児童生徒の「個別最適な学び」を展開する上で、また「学びの保障」ができる環境を整えるという点で、ICT支援員のさらなる活用を期待されます。

(12) 学校給食の概要について ～基本方向3－(3)との関連～

基本方向3「(3)食育の推進」と関連する点検評価はほとんどの項目が「A」評価であり、各校において充実した取組が行われたものと考えます。

「給食だより」を発行して家庭と連携した食育を充実させること、栄養教諭や栄養士の活用、地元食材の積極的な導入、郷土料理(令和4年度は、サツマイモご飯づくり)体験事業の継続などにより、学校給食が児童生徒にとってさらに魅力あるものになり、地域の食文化・食習慣の理解につながるものとなるよう期待します。

また、【その他の評価指標】において、「朝食を毎日食べてくる」と答えた児童生徒の割合(小5・中1)が、小学生は前年度より低下して80%(令和3年度93%)、中学生は前年度より上がって84.7%(令和3年度75.7%)となっています。学校と家庭が、食育の充実に向けてさらなる連携を取ることが求められます。

また、給食費の公会計化については、前年度に比して未納人数が10倍になったことへの対応、「学校給食費の補助制度の検討・実施」にあたって「膨大な事務量と時間を要する」という課題への対応を検討いただきたいと思います。

4 生涯学習の推進

いずれの項目も、「第2期山元町教育基本計画アクションプラン」に基づいて計画・実践されており、住民主体による家庭・地域・学校などが一体となった協働による「まちづくり」という理念・方向性が明確です。乳幼児から高齢者までのすべての世代を対象とした、適時適切な事業が計画されています。

(1) 家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくりについて ～基本方向5との関連～

「①親の『学び』と『子育て』を支える環境づくり」については、基本方向5「(4)家庭教育支援の充実」の点検評価11項目において、「A」評価が5項目、「B」評価が3項目、事業の未実施等による「N」評価が3項目でした。前年度がすべて「B」評価であったことから、取り組みの効果が認められます。教育委員会生涯学習課が中心となり、関係団体・機関との連携をさらに深め、子育てサポーター養成のための講座や研修会の実施、家庭教育支援チーム「つばめ」による家庭教育学級等の支援や情報誌発行などの取組が今後も継続されることを期待します。

「②地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり」については、地域学校協働本部の設置と地域学校協働活動コーディネーターの委嘱、地域人材の積極的な活用がなされており、高く評価できます。鼓笛隊の指導、町探検、家庭科における裁縫活動補助、読み聞かせ、防災教育、「命の教室」など、地域の教育資源を活用した取組がなされています。さらには、コロナ禍にあっても40回の「放課後子ども教室」を開催し、子どもが興味・関心を高める体験活動を取り入れ、高い出席率を得ています。

「③子供たちの体験活動の推進」についても、コロナ禍の中でも可能な限り事業が実施されている点が評価できます。

「地域とともにある学校」づくり、「社会に開かれた教育課程」の展開が強く求められる中で、こうした地域と学校との協働は「コミュニティ・スクール」の導入とともに非常に重要な取組であることから、今後の活動にさらに期待できます。

「④家庭教育の充実」については、点検評価においてほぼすべての項目が「A」または「B」評価でした。家庭教育学級や幼児学級、家庭教育支援講座、家庭教育支援チームの活動が効果をもたらしたものと考えます。学校と家庭が認識を共有して子どもが取り組む「山元の子どもの3つの約束」、「家庭学習の手引き」、「はやね・はやおき・あさごはんがんばりカード」などの活用も効果的であると言えます。

(2) 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進について ～基本方向7との関連～

コロナ禍や町民体育館の改修工事と耐震補強工事が遅れたことなどから、施設利用の制限、各種事業・行事の中止等に踏み切らざるを得ない状況が続いたものと見受けられます。

そうした中で、町民一人当たりの社会教育施設・社会体育施設の利用回数が10回を超えている点、中央公民館大ホールとふるさと伝承館の復旧工事が完了したこと、3年ぶりに町民文化祭が開催されたことなどが特筆されます。

また、社会体育関係団体の全国大会、東北大会出場に対する賞賜金が前年度の4件から22件に増加している点も特筆されます。

(3) 防災教育をとおした命を守る意識の高揚 ～基本方向8との関連～

山元町震災遺構中浜小学校は、令和4年度末の入館者数が20,942人を数え、その3割弱が県外からの見学者であり、全国からの注目度が高いことを示しています。

点検評価においても、「町防災拠点施設での防災学習」の項目が町内すべての小学校及び生涯学習課の評価が「A」となっており、町内二つの防災拠点・地域交流センターとの連携の下に防災学習が計画的・系統的に行われていることがうかがえます。

令和5年3月23日には山元町震災遺構中浜小学校の公式サイトがリニューアルされ、広報活動も一層充実しています。サイトでは、「あなたの目を見て、考え、読み取って未来の災害に備えるための知識に変えてください」と紹介していますが、宮城県新規採用教員の初任者研修の一環として、見学と講話が行われるなどその役割は一層大きくなっています。東日本大震災の被災地の役割として、防災教育の重要性と震災の記憶の伝承について今後も全国に発信することは重要であると考えます。

さらに、「広報やまもと」2023年1月号に「語り部育成ツアー」の開催について掲載されていました。山元町の被災状況や復興の様子を語り継ぐ「語り部」を育成する試みがなされている点も評価できます。

5 その他 ～山元町教育委員会に関する点検評価報告書（評価表）について～

コロナ禍が続く状況にあっても、山元町教育委員会各課、各小・中学校が「第2期山元町教育振興基本計画」に基づき、事業を推進されたことに心から敬意を表します。

「基本方向1～8」、及び「重点的事項①～⑩」については、「項目」、「取組のねらい・概要」、「具体的な取組」が「第Ⅱ期山元町教育振興基本計画」に基づく山元町の教育の方向性を端的に表しており、強く共感いたします。また山元町教育委員会及び各小・中学校における評価、それに基づく成果と課題の分析も的確であると考えます。

以下に、特に基本方向1～8に関して触れなかった項目について意見を記します。

基本方向1 豊かな人間性や社会性の育成

(1) 生きる力をはぐくむ志教育の推進

各小・中学校では志教育の全体計画・年間指導計画が整備され、特に「夢や志の表現・発表の場の設定と一人一人が主体的に学ぶ意欲と目標を持つ指導の推進」に関して作文指導の活用、プレゼンや発表の機会の工夫など多様な取組を行っている点が評価できます。児童生徒が地域の方と触れ合うことは、地域社会への愛着を生み、やがて積極的な地域社会への参画意識の高まりにつながるとともに、児童生徒が夢や志をもつことにもつながるものと考えます。

また、【その他の評価指標】の「将来の夢や目標を持っている」の割合も小学校で88.6%、中学生で73.6%となっており、「第6次山元町総合計画」設定する2023年中間値に達しつつあります。評価指標「人の役に立つ人間になりたいと思う」については、小・中学生ともにその割合が90%を超えていることから、各学校の志教育に関する取組の充実ぶりがうかがえます。

読み物資料の活用という点では、例えば宮城県教育委員会発行の『みやぎの先人集』には、宮城県の先人が101名紹介され、本編に30名が掲載されていますが、山元町で学ぶ児童生徒の興味・関心の実態に即した活用は難しい側面があると推察されます。むしろ、地域に生きる方々、東日本大震災からの復旧・復興や街づくりにかかわる多様な方々との直接的なふれあいから児童生徒があこがれを抱き、自身の夢や志を持つきっかけを大切にされた指導により重点を置くことも大切であると考えます。

(2) 道徳教育の推進 重点的事項①

道徳教育の要となる道徳科の授業の充実、他教科・領域との横断的な指導、志教育との関連、p4c活用した指導などにより、豊かな人間性や社会性、規範意識、コミュニケーション能力を育む実践が重ねられてきていることが点検評価の結果からうかがえます。地域の産業や伝統文化に親しむ体験活動、校外学習、異年齢集団活動、部活動などにおいても、他者とのかかわりを常

に意識した指導がなされていることがうかがえます。

今後も、各学校の実態や地域や家庭の願いをふまえた「目指す児童生徒の姿」を描き、その姿を共有しながら道徳教育が推進されていくことを期待します。

(3) いじめ・不登校への対応 重点的事項②

前述のとおりです。

基本方向2 確かな学力の育成

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の定着と活用する力の伸長 重点的事項③

点検評価の結果から、校内研究の充実、行前や放課後を活用した指導、レディネスの把握、授業と家庭学習との連動などにより、各小・中学校において基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための取組が着実になされていることがうかがえます。

また、小中研究主任者会が作成した「学びの基本」などを活用して、町内全ての小・中学校の教職員が共通認識に立ち、確かな学力の育成に取り組んでいる点も評価できます。

「非認知能力」の育成については、後述する「ウェルビーイング」とも関連してくるものと考えますので、他者とかがわり合いながら生きていく上で重要であるという認識にまで立って、取り組まれていくことを期待します。「学びに向かう力、人間性など」に例えば忍耐力や自制心、意欲や自信、協調性や社会性、探求心や自発性などの資質能力も含めて育成を図ることにより、「確かな学力」とともに「社会的スキル」も児童生徒に身に付けていくものと考えます。

また、「家庭学習の習慣化」については、全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙）において、「1時間以上家庭学習を行っている」と回答した割合は、小学6年生で58.8%、中学3年生で64.3%であり、宮城県のデータとほぼ変わりはありません。一方で「テレビゲームの時間」（1時間以内）は、小学6年生で11.1%（宮城県21.2%）、中学3年生で25.0%（宮城県28.6%）であり、家庭学習に充てる時間の増加は期待できると言えます。今後も、各各小・中学校においては家庭学習の習慣化を目指して、児童生徒に意欲の持続化を図る働きかけや、保護者に理解と協力を得る働きかけを適切に行うなど、さらなる家庭学習の習慣化に向けて地道な継続の取組を期待します。

さらに、町内の小・中学校が令和4年度から2学期制に移行しましたが、そのことが「確かな学力の育成」にどう生かされているのかという点についても、今後の検討課題としていただきたいと考えます。

(2) 「分かる授業」への授業改善

町内共通の研究主題である「自分の言葉で表現し、互いに高め合う児童生徒の育成」をふまえ、校内研究を連動させ、校長先生の指導の下、研究主任がリーダーシップを発揮して日々「分かる授業」への授業改善に取り組まれていることが強くうかがえます。

宮城県総合教育センターの「市町村教育委員会との連携による学校サポート事業」を活用した点も効果的であったと考えます。

このことは、【その他の評価指標】『授業が分かる』と答える児童生徒の割合（小6・中3）が小学校は国語90.4%、算数が82.5%、中学校は国語77.4%、数学79.8%という高い割合であることからもうかがえます。

また、成果と課題の中に「指導者によるファシリテートの在り方が、様々な校内研究・学力向上の話合いや職員室内での話題になることが多く、児童が考えを表現することへのサポートの意識が高まっている」という記述がありました。このことに関連して、令和3年1月の中央教育審

議会『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（答申）が参考になるものと考えます。この答申においては、「令和の日本型学校教育」を担う教師の姿として、

○子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たしていること

○子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えていること

が指摘されています。教職員の皆様には、この「教師の姿」を具体的にイメージしながら、指導者として、伴走者として「分かる授業」づくりに日々取り組んでいただきたいと思います。

（３）ICT教育の推進 重点的事項④

各小・中学校で学力向上に資するICT機器の活用、校務の情報化がなされています。併せて、情報活用能力と情報モラルに焦点を当てた指導の充実を図っている点も評価できます。

ICT教育の推進は、子供たちの学びをさらに豊かに、そして可能性を大きく広げることにつながります。令和の日本型学校教育で示された「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を実現させていくために、さらなる実践の蓄積を期待します。

（４）国際理解を育む教育の推進

ほとんどの項目が「A」もしくは「B」の評価でした。各校において、ALTを活用した外国語や外国語活動の授業が計画的に実施され、児童生徒が主体的にコミュニケーションを図る態度の育成が図られていることがうかがえます。異文化理解の点でも、社会科や道徳科と関連させた指導、ICTを活用した調べ学習などによりの確に指導が展開されていたことがうかがえます。

（５）特別支援教育の充実

評価項目のほとんどが「A」評価でした。各小・中学校とも、児童生徒一人一人の「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」を作成し、定期的な見直しも行いながら、個々の実態に応じた必要な指導と支援が適切に行われていることがうかがえます。

地域支援コーディネーターの活用などによる山元支援学校との連携、特別支援連絡協議会を通じた幼稚園・保育所（園）・小学校・中学校との連携も積極的になされています。

連携大学である宮城教育大学や尚絅学院大学の協力も必要に応じて得ながら、通常学級に在籍する要配慮児童・生徒への指導・支援も含めて、一人一人の教育的ニーズに応える教育活動の展開・推進をさらに図っていただきたいと思います。

ただ、点検評価の「成果と課題」欄に「PTA会費における特別支援学級助成費」の執行について記した学校がありましたが、本来は町の教育予算から支出されるべきものではないかという疑問が残りましたので、教育委員会においてご確認いただきたいと思います。

今後も、「特別支援教育は、共生社会の形成に向けて、インクルーシブ教育システム構築のために必要不可欠なものである」という共通認識の下、その充実を図っていただくことを期待します。

基本方向３ 健やかな身体の育成

（１）知育・徳育にもつなげる基本的生活習慣の定着 重点的事項⑤

項目「学力向上に向けた基本的生活習慣の確立」では、特に「適切なメディア利用」、「児童生徒の生活実態の把握」について各校で保護者と連携した具体的取組がなされています。全校共通の「3つの約束」をベースに、ノーゲーム・ノーテレビデー、メディアコントロールチャレンジ、早寝早起き朝ごはん運動、各種アンケートの実施などの取組が見られ、児童生徒に対しては勿論、家庭への啓発にも効果があったものと考えます。

前述したとおり、「テレビゲームの時間」（１時間以内）は、小学6年生で11.1%（宮城県

21.2%), 中学3年生で25.0%(宮城県28.6%)であり、一つの効果の表れであると言えます。

項目「学校保健の充実」は、ほとんどの項目が「A」の評価となっています。校長先生の指導の下、各校の保健主事、養護教諭を中心とした学校保健体制が充実し、児童生徒のために十分に機能していることがうかがえます。

また、【その他の評価指標】では、「肥満率」が令和4年度は小学校21.7%、中学校17.0%になっています。「令和4年度宮城県児童生徒の健康課題統計調査結果報告」(宮城県教育委員会)によると、宮城県の小学生は13.09%、中学生は13.8%であり、山元町は小・中学校共に大きく上回っています。コロナ禍の生活にあって、活動範囲が狭いこと、運動不足であること、生活習慣の乱れ等が要因として考えられますので、家庭との連携の下に、肥満率の改善に向けた取組を期待します。

(2) 体力・運動能力の向上

ほとんどの項目で「A」評価でした。コロナ禍の中で、体育の授業は勿論、体育的行事、部活動、業間や放課後の時間帯などに今だ制限がかかる状況であったにもかかわらず、各小・中学校で工夫した取組がなされています。今後、児童生徒の体力・運動能力調査の結果分析などを基に、コロナ禍の影響で改善が必要と判断される項目については具体的な取組が求められます。

また、部活動については、山元中学校野球部が第32回宮城県中学校野球秋季選抜大会で優勝の快挙を成し遂げました。生徒にとっての部活動の意義を重視し、地域移行を見据えて例規の整備が予定されている点が評価できます。「地域における受け皿の整備」と「指導者の質及び量の確保」なども含め、今後具体的な方策が示され、スムーズに移行が進むことを期待します。

(3) 食育の推進

前述のとおりです。

基本方向4 教育環境・教育活動の充実

(1) 小学校再編の計画的推進

小学校再編に関する町民と町長との5回の懇談会を経て、「小学校区1学校区とする」という最終判断がなされました。引き続き、児童にとっての最適な学びの必要性、「未来を拓く学校づくり」の意義と必要性をふまえながら、再編計画を推進していただきたいと考えます。

その際、坂元中学校と山下中学校の再編による「山元中学校」の誕生に向けた取組、町内小・中学校で取り組んでいる「みのりプロジェクト」の方向性や活動内容は、小学校再編の協議においても十分生かされるものと考えます。

(2) 「みのりプロジェクト推進事業」(学校教育充実事業)の推進

重点的事項⑥

前述のとおりです。

(3) 教職員の働き方改革の推進

ほとんどの項目が「A」または「B」評価であり、各校において校長先生の強いリーダーシップの発揮と、教職員の皆さんが働き方に関する意識の変容が確実に行われているものと考えます。行事や会議の精選、時間短縮、「欠席連絡フォーム」の導入など、各校において着実な取組がなされています。

また、「山元町立小中学校における働き方改革に係る指針」の運用、勤怠システムや校務支援シ

システムの導入、「山元町立中学校に係る部活動方針」の運用と部活動指導員の配置なども着実に浸透しています。学校における働き方改革の主眼である「児童生徒と向き合う時間の確保」が一層なされるよう期待します。

なお、「教職員に対する健康診断」については、各校の養護教諭が中心になって滞りなく実施されています。ただ、学校保健安全法において学校の設置者の義務と規定されていることから、教育委員会の学校、教職員へのかかわりがより明確に見える取組が必要であると考えます。

(4) 教育環境諸整備の推進

学校だよりや学年だよりの発行・発信、ICT支援員の協力も得た学校ホームページの充実と定期的な更新により、各校とも積極的に情報を発信している点が評価できます。さらに、コロナ禍にあっても、分散参観などの工夫により学校公開に努めている点も評価できます。

また、学校教育施設の計画的な改修等も進んでいることがうかがえます。

基本方向5 家庭・地域・学校の連携・協働の推進

(1) コミュニティ・スクールの導入と地域学校協働本部の連携 重点的事項⑦

令和4年度から町内全ての小・中学校にコミュニティ・スクールが導入されたことは特筆に値すると言えます。

コミュニティ・スクールは、「地域とともにある学校」を実現する上で、また「学校経営の自律的改善」を進める上で、さらにはこれからの「まちづくり」においても大きな役割を果たすものと考えられます。

(2) 小小連携、幼保小連携、小中連携の強化

「学力向上」に焦点を当て、学力向上プランの作成と共有、指導主事訪問時の相互参観などを通して学校間連携に取り組まれており、今後の継続とさらなる連携強化に期待します。

児童生徒の交流活動については、コロナ禍にあって実施が難しい状況でしたがオンラインでの交流などに取り組んでいた点が評価できます。

また、幼保小の連携・交流の促進については、前年度に引き続き、点検評価が各小学校及び教育委員会がすべて「A」評価であり、当初の目的が達成されたものと考えます。継続した取組を期待します。

(3) 子供たちの体験活動の推進

前述のとおりです。

(4) 家庭教育支援の充実

前述のとおりです。

基本方向6 伝統・文化の尊重と文化財の保護と活用

(1) 伝統文化の尊重と理解 重点的事項⑧

多くの学校が、生涯学習課との連携により、歴史民俗資料館を活用したり、出前授業を取り入れたりしていました。無形文化財等の体験学習に取り組む学校も見られました。

地域の歴史や伝統文化に触れることにより、児童生徒が「ふるさと山元」の魅力を再発見し、社会参画意識を高める一助となることを期待します。

(2) 文化財の保護と活用

評価項目は、いずれも「A」評価でした。「広報やまもと」2023年4月号では、「大條家茶室」の修復について特集され、修復プロジェクトの一環としてクラウドファンディングへの協力も呼びかけられていました。文化財の保護・継承に対する意識を高める上で有効な取組であると考えます。

基本方向7 生涯にわたる学習・文化芸術・スポーツ活動の推進

- (1) 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進
- (2) 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実 重点的事項⑨
- (3) 震災遺構の活用
→ (1)～(3)については前述のとおりです。

基本方向8 防災教育をとおした命を守る意識の高揚

- (1) 防災教育の推進・充実 重点的事項⑩
- (2) 地域の自主防災訓練や町総合防災訓練への参加
- (3) 震災遺構・防災拠点の利活用
→ (1)～(3)については前述のとおりです。

むすびに

「山元町教育委員会に関する点検評価報告書(評価表)」の集計について、令和4年度と前年度の令和3年度を比較すると次の表になります。

年度	評価項目数	A評価	B評価	C評価	D評価	N評価
令和4年度	474 (100.0%)	310 (65.4%)	127 (26.8%)	9 (1.9%)	2 (0.4%)	26 (5.5%)
令和3年度	483 (100.0%)	372 (77.0%)	68 (14.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	43 (8.9%)

「項目」、「取組のねらい・概要」が異なりますが、前年度と比較して「A」の割合が減少し、「B」評価の割合が増加しています。また、前年度は項目数が0であった「C」及び「D」評価が11となりました。

このことは、評価が下がったという数値面でのみとらえるのではなく、令和4年度からスタートした「第2期山元町教育振興基本計画」に基づく取組が教育委員会、各小・中学校において試行錯誤を重ね、新たな課題を明確にしながら真摯になされている表れであるにとらえるべきであり、適切な評価がなされた結果であると考えます。

引き続き、「第2期山元町教育振興基本計画」に掲げる、

- 未来を生き抜く力の育成を目指す学校教育
- 生きがいを持ち、支え合う地域社会をめざす社会教育
- 健康・体力の向上をめざす生涯スポーツの振興

に向けて、教育委員会には各小・中学校をはじめ、関係機関・団体との連携の下に一層のご尽力をお願いいたします。

また、令和5年6月16日に国の新たな教育振興基本計画(令和5年度～令和9年度)が閣議決定されましたが、その方向性の一つに「ウェルビーイングの向上」が示されています。ウェルビーイング(well-being)は、「身体的・精神的・社会的に良い状態にあることを言い、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念」とされています。

教育にウェルビーイングが求められる背景としては、次の3点が指摘されています。

- 不登校やいじめ、貧困など、コロナ禍や社会構造の変化を背景として子供たちの抱える困難が多様化・複雑化する中で、一人一人のウェルビーイングの確保が必要
- 子供・若者の主体性や創造力を育み、一人一人の自己実現を目指すことで、持続可能な社会の創り手としての基盤となる資質・能力を育成
- 地域における学びを通じて人々のつながりやかかわりを作り出し、共感的・協調的な関係性に基づく地域コミュニティの基盤を形成

これらのことは、「学校教育と社会教育が連携・協働して教育基盤の再構築を図り、町に愛着と誇りをもって町民一人一人が自己実現をめざし、健康で生きがいに満ちた生涯学習社会を実現する」ことを目指す山元町の「教育等の振興に関する施策の大綱」、そして「第2期山元町教育振興基本計画」の理念に通じるものであり、今後の事業や教育活動推進の参考になるものと考えます

元 尚綱学院大学 教職課程部門 特任教授 佐藤 佳彦

(元 宮城県南三陸教育事務所 所長)

(元 宮城県教育庁教職員課 副参事)

V 参考法令

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ～抜粋～

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなくてはならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。